

江 渡



作詞 故秋本吉郎(元本学教授)
作曲 柴田南雄(東京芸術大学教授)

作詩 中村行男
作曲 松川圭一

一 大淀の
水は春ゆく ゆたかな春だ
芽立つ葦原 緑がしみる
この若さ
希望は明るい 蒼空かけて
永遠の青春 みなぎる学園
大阪 大阪経済大学

(一) 此処城北に迎えたる
紺碧淀の春の夢
惜春の賦のたゞよえば
薫風静かに流れ来て
逝きし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり

(五) 乱る金剛枯風の
叫ぶ野嵐粉吹雪
緑定石に付ずめば
無言に教うる朔風の
肌にきびしき鞭なれど
懐古楽しや語り草

二 大樟の
蔭は裕々 夏風そよぐ
学徒師弟が 幹負ひもちて
諸汗に
確つかと植えた 融和の象徴
繁れ自由の 花さく学園
大阪 大阪経済大学

(二) 水やにこれる人の世に
真理求めて遊ぶ子の
友愛久遠に変わらまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜みて励め我が春を

(六) 霜ふみ通うこの朝
暮る、易きやこの夕
真冬寒波の寄せ来てや
淡き光のいざないに
汝が故郷を偲ぶれば
鐘の音さびし瑞光寺

三 そびえたつ
白亜の殿堂 秋空高い
澄んだ心に 鐘なりわたる
晴れ空だ
ひらく真理の 扉につどふ
面はかがやく 求理の学園
大阪 大阪経済大学

(三) 集いの庭を共にせし
我が学舎の乙女子は
愁の時は過ぎ去りて
理想の遠地にひたぶるに
幸を求めて馳けるとや
感激新たな此の曲に

(七) 小鳥が森に歌うとも
小羊野辺にたわむとも
さすらい旅の此の世には
花びら風に待たずして
春や心の乙女子は
はかなき恋に泣くとかや

四 濤標
世界の商都の 入船出般
水先みちびく 経済実践
前途はるか
氷る潮路も 乗切る気力だ
自由で揺がぬ 自治立つ学園
大阪 大阪経済大学

(四) 虫の音すだく秋来れば
小川こよなくさびた、え
こち吹く風に花なびき
自然しいて逍遙の
尋ぬる途は遠くして
薙露人生はかなしや

(八) 想いめぐりて尽きぬ時
緑が原に人訪えば
落葉か、れる語らいに
愁憂の声今はなく
新たに目醒むる者のみの
微笑は花に映ずなり

江 次
— 第 8 号 —
目 次

学歌・逍遙歌……………2
澱江第8号発行にあたって……渡辺達好…3
学園だより……………4
池内先生を偲ぶ……………5
同窓会本部だより……………6
— 予算決算承認と新役員も —
同窓会支部だより……………8
— 22支部でも活発な動き —
東京支部、京都支部、丹有支部、神戸支部、
姫路支部、岡山支部、広島支部、山口支部、
九州支部、福井支部、岐阜支部、大阪市役所
支部、山陰支部結成にあたって 10回生の
集い 13回生の集い 17・19回生の集い
入学試験にあたって……………荒巻博之…13
あのこと「中興期」……………14
学舎新増築とマスプロ化……………14
ゼミ短信……………17
短歌・ゼミ旅行……………田岡雁来紅…18
編集後記……………27
北から南から——同窓生短信集……21

表紙説明・昭和46年度同窓会総会 於太閤園

南北ベトナム戦争は、一向に戦火の終結を
みないまま、いたましい日月が流れている。
ベトナム人民の苦難はいつはてるとも知れな
い状況にあり、全く不幸な事態といわざるを
得ない。

なおまた、この国の周辺国家をみても容易
ならざる情勢にあるようである。同じ東洋民
族としても、はたまた世界の民族としても、
早くその争を終結して平和を招来できる日を
願う次第である。

終戦後二十七年、今日の日
本の国際関係は今や中国人民
共和国を対象に日本政府をは
じめ、民間諸団体が日中国交
回復に諸般の努力を傾けてい
るようである。

いずれにしても、わが国と

中国との関係は政治的基準は異なるが、世界の
の人々が平和を求めて努力をすることに
異議を唱えるものはなからう。

この平和を思うにつけてもベトナム戦争の
悲惨さや、中東におけるイスラエルとアラブ
ゲリラの闘争こそ本当に憂うべき姿であら
う。

過日、日本の過激派学生が行なったテルア
ビブ空港における悲劇事件や、ミュンヘン・
オリンピック宿舎でのパレスチナゲリラのイ

スラエル選手に対するテロ射殺行為、これは
なんとしても悲しいできごとである。イスラ
エルとその周辺のアラブ諸国との政治関係や
人種の相剋のひめられた多くの問題について
は全く知るべくもないが、世界平和行事のオ
リンピックにまで、その憎しみと恨みをはら
さねばならぬほどの仇敵視観は、当事国間で
なければわからぬことであろうが悲しいこと
である。

ゲリラ死亡者の死骸引取国における英雄視

観が一層あとの相剋のむつかしさをかもし出
すのではないかと憂えざるを得ない。

世はまさに文明の異状な発展とは逆に幾多
の危険と暗黒破乱が何処で起るやも知れぬと
いう世界情勢である。

このような事態の中でも日本国内は、一部
過激派学生の蠢動はあるにしても国家各種機
関の絶えざる取締活動により安全な(産業公
害の増大であるいは安全とはいいがたいかも
知れないが)生活ができることは幸であると

いわねばならない。
さて、全国各地の同窓会会員各位にはまず
まずご健勝にてご活躍のことと思ってお慶び申
し上げる次第である。

澱江第八号発行にあたって

同窓会理事長 渡辺 達好

ともあれ、学内外理事、評
議員一致してこの難局を打開
せねばなるまい。特に、学内
理事諸先生方の一層のお力添
えをお願いしたい。

ときに、本年度の澱江も関
係役員各位の献身的なお骨折によりここに発
行することができました。もられた内容その
他については多くのご不満な点があるうかと
思われるが、最近の全般的物価高騰の影響
と、限られた編集費の関係から不十分なもの
となったかも知れないが、なにとぞご諒承願
いたい。
会員各位の一層のご多幸とご健康を祈念い
たす次第である。

(九月二十二日記)

大阪経済大学学園だより

この一年を振りかえって

この一年の主な出来事と情勢を拾ってまとめてみよう。できるだけ真実に、できるだけ昨年以前にさかのぼって見たこと聞いたことを——

大学事務局 井手口 記

46・4月

1日 恒例の学費滞納(45年分)除籍者発表。1部約百五十名、二部約二百名。思いの先輩もあるかも知れないが、多少増加の傾向はどうか、どうも。

8日 入学式。勿論各教室に分散しての前年の例に倣う。前日革マル派政治集会を禁止するも彼らが強行したので一沫の不安を胸中秘めざるを得なかったが、アジ・マイクで終る。ヤレヤレ、めでたし。

28日 沖繩デー。正門バリケード授業一部分行われず。何時もながら感ずることだが、大学と学生を仮りに労・使関係にたとえれば、授業ポイコットは自ら直接被害者になるに止まり、大学側に損失も苦痛も与え無いストなんて、どんなに深い意義があるうとも理解に苦しむ。ひよつとすると彼らは、一般学生に斗争を挑んでるんじゃないやなからうか?と思つた。その夜9時から教職員によってバリケードを撤去する。

46・5月

1日 教職員協力して、学内外ところかまわず貼られたビラの除去作業。もう一年以上もバリケードの撤去やこんな作業をやったから慣れた

モノ。しかし、テキもさるもの、その都度新しい糊を考案していることを発見す。

14日 五大鉄スト。休講。もう年中行事になってきているのだから、国の休日指定したらどうか等と冗談とも本気ともつかず話す。

18日 沖繩ゼネスト支援深夜斗争。○時を期して統一行動を行うと看板にある。かつて、全共斗跳梁時代に公布された本学戒厳令は其の儘生きているので、イレブンPM退去勧告に図書館前集合場所に赴く。約一時間論争。後から聞けばメンバーの約半数は関学生をはじめ附近工場のお歴々。

21日 ビッグニュース、学内奨学金増額決定——三万円を五万円に。昨今の学生は恵まれてますよね。結構、結構。

27日 2部沖繩返還協定調印阻止スト、正門閉鎖、講義不能。またしても。

28日 四部会主催1部学生会大会、予算・決算の審議。入場をめぐり革マル派と民青派の間でトラブル。全学スト案否決さる。もつともだ。

29日 明るいニュースはないかなア。あつたあつた、ハンドボール

47・7月

2日 剣道部全日本学生選手権大会出場

5日 シンナーを吸い意識不明の学生を旧学生ホールで発見。天の橋立で服毒自殺未遂の学生を説諭。どうも何かが狂っているようだ。質実剛健の気風や何処。あつた、あつた。少林寺拳法部西日本選手権大会で優勝。

29日 またしても読売新聞。誤報も甚だしい、いささか記者たるの良識を疑いたくなる。

その先生と親しくお話が出来る機会は私の大学院進学と共におとずれました。先生との大学院での生活は本当に楽しいものでした。毎週金曜日の昼すぎより始まる講義はまったく時間を忘れさせるものであり、外が暗くなってから初めて気がついたように終るといった調子でした。学問の話はもとより色々の話を聞かせて下さいました。特に青春時代を過ぎたアメリカ、ドイツでのこと、親友三木清の思い出を明話の話を好みました。

池内先生をしのぶ

稲福善男

今先生を偲ぶ時走馬灯のようにいろいろな思い出が浮びます。原稿を前にして遅々として筆が進みません。あまりにも先生との思い出が多すぎるのです。そしてそれを語るにはあまりにも時がたつていないのです。本当に優しい先生でした。

私が初めて教壇に立つ時も先生

も知れずと考えてみる。

21日 ご存知国際反戦デースト。2部は20日から22日まで。クイズ:一年間で授業できる日は何日ありますか?。

28 11/2 1部大樟祭
これはしたり、深夜映画祭強行、眠らない夜のためにか。年毎にさびれゆく大学祭。昔はよかった。

46・11月

10日 沖繩ゼネスト支援スト。これでスト記事は省略することにしよう。

21日 サッカーAリーグ2位、全国大会出場決定。

46・12月

4日 早朝関西大学構内で、中核・革マル内ゲバ事件発生、中核派京大生一名同大生一名殺害さる。革マル派は本学学館に集合、一番電車で関大に伺い十数人の突撃隊を先頭になぐり込みをかけ、火炎ビンと鉄パイプで激しい戦いを展開した模様。

8 12日 全日本サッカーリーグ東京で開催されたが。残念にも所期の成績がならず。

10日 学生会館夜間立入禁止。47年1月・2月

17 2/8 学年末試験。トラブル無し。

相変らず減らない不正行為。処分対象十八名、下手だなあー気の毒に、とは経験者の弁。

25日 関西学生柔道連盟訪欧選手団に三回生西野勲君参加。火炎ビン鉄パイプ、竹竿をやめて素手でゆこう、素手で。

※ 3月は例によって休刊。以後例年の行事及スト関係省略。

47・4月

28日 大阪城公園で開催された、

れた北陸在住の、塚原鉄二・西川和彦・松下直義、三君に紙上を借りお礼を申し上げる。

終りに

これで今年度報告の稿を閉じる。ただ、先輩諸氏が心配するような箇所があれこれと出たように思う。その殆んどが、かつての学園紛争のイメージから、学生活動家の動向に集中するのでは無いかと推察する。

しかし、本学に集るその数は常に三十名前後で、九千数百の一般学生は明らかに先輩が想像する後輩であることを忘れないで欲しい。

先生が亡くなられてすでに八カ月になろうとしています。これほど長い間先生にお会せずには過したことはありませんでした。もしある人との出合がその人の人生を根底から変えてしまう場合があるとすれば、池内先生との出合がなければ私の人生もおそらくはまったく違った形をとっていたでしょう。かたくなまでに学問に、自分に敵しく、一方では我々をすっぽりと包んでしまわれたその抱擁力は人生で求めてお会い出来る人でもないように思われます。きびしくやさしくみつめて下さり、そばにいて下さった先生が今はもうおいでにならないのです。そのさみしさはどのように表現すればよいのでしょうか。

あまりにもさわやかな「学者」としての生涯をまっとうされた先生。しかしいまその死を悲しむことよりも、いつか先生のお側に行つた時、お話の出来るよう努力し成長することが今の私達の使命なのでしよう。(33回 常任理事)

関西労学総決起集会で革マル派京都外大生ゲバで死亡。聞き慣れた事件感覚が以前程刺激を受けないが、どうして?、というこれら若者に対する不信と疑問はその度に深まってゆく。またウチが大変かな——

47・5月

7日 前記人民葬が行われる。

何だかツマラス死にかたをしたようで、憐憫の情を覚ゆ。他大学のことはいいえ。柔道部全日本選手権大会に出場(於東京)。

16日 これは変わったニュース。ヨット部大阪湾で遭難、但し十五名全員無事救助されたので心配無く。

ある冬の日が忘れられない一日になってしまいました。あれほど学生にされた恩師池内信行先生が突然、本当に突然往つてしまわれたのです。昭和四十七年二月十二日、午後四時半の事でした。師の偉大なる業績は「経営経済学の本質」「経営経済学序説」「経営経済学論考」「経営経済学の基本問題」「社会科学方法論」「経営経済学総論」「現代経営理論の反省」等々の著作に、また学界を二分された方法論争の中に見い出すことが出来ますが、常に「科学としての経営経済学」の確立に心をくだかれたお姿が私がいまさらとり上げて紹介するまでもないように思われます。

池内先生が大阪経済大学においてになったのは、私が大学二年生の時です。八年前、経営経済学総論の講義を聞かせていただいたのが最初の出合でした。清潔な、いかにも学者らしいお姿を、とうももなく遠くの世界に住まわれている方のように感じたのを憶えています。

同窓会本部だより

予算決算を承認、新役員も

同窓会総会を都島区の大園園に移して二年目、集りはいま一つだ。やはり年一度のお祭りは学校でという声が圧倒的、今年はずっと大学へ帰ってと現在、案がねらわれている。新しい役員もきまってきた。また新しい活動が芽生えるだろう。

昭和46年度 同窓会総会

昭和46年11月21日(日)
於 大園園

恒例の同窓会総会は、学長福井孝治先生・理事長岡嘉寿彦先生をお迎えして、菊花かおる十一月二十一日大園園で開かれました。

絶好の秋日和に恵まれて、三々五々同窓生が来場、"友あり遠方より来たる。また楽しからずや"の雰囲気上々。同窓の共通感が先輩・後輩の顔にみぎり、共通の思い出の輪のなかに恩師を暖く包み、思い出の糸をたぐりよせて話に花を咲かせ、和気藹々。学生たちの熱演するメロディに学歌が流れ、拍手が渦巻く盛大なパーティでありました。

母校につながる同窓生とは、いくつになっても懐しいもの、次回は母校での総会にしたいものと、一同健康を心から祈り、再会を約して午後二時半散会いたしました。

予算決算を承認可決 新常任理事選出

◇昭和四十七年七月一日(土)午後

六時

◇ニュー・パレス(新阪急ビル)

◇議案

第一号議案 昭和四十六年度決算および昭和四十七年度予算

第二号議案 常任理事選出

第三号議案 その他

◇出席者 七〇名

定刻より若干遅れて比企事務局長の開会の言葉に引き続き渡辺理事長より挨拶があり、早速議案審議にはいる。

第一号議案

○昭和四十六年度決算について陰下会計部長より報告。

○小松監事より監査報告。

○昭和四十七年度予算案について玉岡総務部長より各項目につき説明。

質疑応答のうえ、満場一致にて可決。

第二号議案

比企事務局長より議長選出方法について提案。「司会者一任」との声とともに拍手にて満場一致。

常任理事名簿と分担表

理事長	渡辺 達好 (3)	世良 鎌次 (3)
常任理事	広田 実 (1)	萩原 市郎 (10)
	磯野 斉 (3)	
総務部長	玉岡 浩 (12)	
〃 副部長	水納 敏也 (25)	
	小松真佐江 (14)	谷口 一郎 (22)
	酒井 弘光 (23)	
会計部長	陰下 嘉典 (16)	
〃 副部長	平尾 哲男 (28)	
	大西 健介 (35)	
編集部長	山中 良夫 (19)	
〃 副部長	前田 悦子 (13)	
	松本 義和 (18)	大門 寿郎 (29)
	稲福 善男 (33)	寺岡 利之 (31)
事務局長	比企 重 (7)	
監 事	山上 善彦 (2)	三木 薫 (4)
	中村美智子 (13)	

以上にて議事をとどこりなく終了し、別室にて懇親会に入り二〇時四〇分散会。

なお、二方年間ご苦労をお願いすることになりました新しい理事と当日選出された常任理事およびその分担は別表のとおりです。

を発表、全員拍手でこれを承認。引き続き新常任理事でもって理事長を互選の結果、渡辺理事長を再選。

新しく、就任された渡辺理事長の就任挨拶ののち、新監事として山上(2)、三木(4)、中村美(13)の三理事を指名。全員これを承認。

第三号議案

和歌山相互銀行支部長 斎藤照雄理事より職域支部解散について報告あり、長年のご功績に対し拍手でもってその労をねぎらいつつこれを諒承。(なお、詳細については「支部だより」をご参照下さい 編集部)

昭和46年度収支決算表

自 昭和46年4月1日 ~ 至 昭和47年3月31日

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	決 算 額	予 算 額	科 目	決 算 額	予 算 額		
前 期 繰 越	121,889	121,889	総 会 費	1,325,775	1,600,000		
会 費 収 入	7,229,000	7,300,000	役 員 会 費	779,838	1,000,000		
名 簿 収 入	260,000	600,000	支 部 費	462,500	500,000		
定 期 預 金 利 息	956,641		事 務 費	1,848,831	1,850,000		
普 通 預 金 利 息	13,318		編 集 費	1,482,385	1,600,000		
利 息 収 入	969,959	600,000	学 対 費	595,500	600,000		
利 総 会 収 入	370,500	△ 750,000	学 慶 費	19,000	20,000		
雑 借 入 金	21,268	0	借 入 金 返 済	2,000,000	2,000,000		
	1,700,000	0	借 入 金 利 息	36,146	0		
			借 入 金 支 出	5,645	0		
			特 別 基 金 へ 戻 し	906,989	0		
			特 別 基 金 へ 振 替	956,641	0		
			予 備 費	0	201,889		
			次 期 繰 越	253,366	0		
合 計	10,672,616	9,371,889	合 計	10,672,616	9,371,889		

昭和47年度収支予算表

自 昭和47年4月1日 ~ 至 昭和48年3月31日

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	予 算 額	予 算 額	科 目	予 算 額	予 算 額		
前 期 繰 越	253,366		総 会 費	800,000	800,000		
会 費 収 入	6,800,000		役 員 会 費	800,000	800,000		
名 簿 収 入	300,000		支 部 費	500,000	500,000		
利 息 収 入	10,000		事 務 費	1,850,000	1,850,000		
利 総 会 収 入	250,000		編 集 費	1,300,000	1,300,000		
			学 対 費	600,000	600,000		
			学 慶 費	20,000	20,000		
			借 入 金 (返済)	1,700,000	1,700,000		
			予 備 費	43,366	43,366		
合 計	7,613,366		合 計	7,613,366			

新しい理事と支部長

- ▷(1)宇野善四郎・内田真二▷(2)中島春雄・松原四郎▷(4)中村 源・森元庸晃▷(5)岸本健蔵・清水忠文・長岡辰生▷(6)伊藤音七郎・中田富雄・中島靖夫▷(7)高垣 収・日南為雄▷(8)柴田秀一・大橋秀男・中島政義▷(9)武川茂夫・山口久雄・須々木敏郎▷(10)榎井貞詮・武内美次▷(11)桑津 昇・筒井英夫・重里 実▷(12)阪上謙之助・百野 操▷(13)山崎和子▷(14)上野満里子・柴田悦子▷(15)黒田 稔・大川 良・木下一子▷(16)百瀬昭治・酒井克己▷(17)太田一澄・相馬士朗・西尾良明▷(18)貝塚 茂・浜本 泰▷(19)平田五郎・浅井一男▷(20)山村泰造・川野群平・小林郁夫▷(21)榊 喜作・畑 勉・奥山正美▷(22)内田和市郎・大槻明司▷(23)西本集一・坂口良三▷(24)上野晃司・忠政 茂・山上景士▷(25)村井十三夫・邑上 亨▷(26)辰本博己・田丸寛二・坂井田雄賢▷(27)旭 克之・森泉新一郎・坂元 裕▷(28)鶴谷利一・大久保儀臣▷(29)紀川賢太郎・長崎和夫▷(30)川上 堅士・神田 博・大室和弘▷(31)杉浦雄二・山本昭夫▷(32)村田哲夫・中沢広凱・湯原郁雄▷(33)奥田 猛・丹波敏寿▷(34)岡崎竜雄・島口勝治・柏原義盛▷(35)須藤満征・柏木 弘▷(36)鈴木則男・福長俊之・合田照夫
- 顧問 藤原光治郎・浅沼玄恵・梅田武文

現支部長一覧表

- ▷東京 服部友一▷東海 加藤正秋▷滋賀 野田邦弘▷京都 木下隆徳▷丹有 梶村文弥▷神戸 長島 隆▷姫路 永川仁一▷和歌山 松本句弘▷岡山 大森喜多志▷広島 佐々木一義▷山口 小田 護▷高松 矢野保郎▷徳島 谷 俊一郎▷高知 横田憲介▷九州 荒牧博之▷石川 石地与四太郎▷福井 内田 甫▷富山 重松 尚▷三重 水上敏夫▷西宮 増田憲治▷岐阜 丹羽好輝▷大阪市役所 村上静夫

同窓会支部だより

22支部でも活発な動き

年々支部の活動が活発になり、支部総会への出席者が増えてきているのはまことに喜ばしい。それに同期会、ゼミの集まりもなかなか盛んである。ここに集録したのは、この一年の動きであるが、今年はずいぶん無用、支部総会、同期会等にふるって参加して下さい。

東京支部

東京支部ふた昔

丁度、二十年前の今日(八月二十日)は、「大阪経済大学同窓会東京支部」の誕生の日である。それまでも、第一回卒の市原先輩を中心に昭和商在京卒業生の同窓会が行なわれていたが、この日をもって新しい支部に生まれ変わったわけである。これより少し前、故大北先生と藤原先生が上京の際、私の勤務先に立ち寄り、「東京にも卒業生が多数来てはいるはずだよ、今年は大卒卒業生も集立ったので大阪経済大学同窓会として再開しては……」とのおすすめにより、判明している同窓諸兄の名を連ねると五十一名になったが、なんの因果かそのまま私に世話を引受けざるをえない羽目になり、第三回卒の船橋先輩を支部長に、第四回卒の柿沢先輩を幹事長として二十七年八月二十日に第一回の経大支部同窓会を開催、前記の両先生をはじめ十七名の同窓諸兄の出席のもとに盛大にスタートを切った次第である。会費は五百円であったが、現在の三千円位(〇)の内容であったように記憶している。藤原先生のまだお若い顔も目に浮かぶ。かく申す私も当時はまだ独身。現在はずい十八才になる子供もいるが、この日の情景はごく最近の出来事のように思い出され、これがふた昔前と気付いて驚かざるをえない。

さて、東京支部は発足したが、なんといってもこの地は女性を除けばその九割以上はサラリーマンとして東京に仮住居を持つ方々であり、一年毎に名簿の内容はすっかり変わるので、この二十年間、その把握には頭を痛めた。年賀状がごっそり「転居先不明」で戻ってくる、がっかりしたものである。日本列島が改造されれば話は別として、この二十年間、政治、経済、文化の中心地である東京は、特に変化をかきねた。二十年前には「君の名は」で有名になった数寄屋橋の下には川が流れていた。地下鉄も銀座線だけだった。東京タワーも霞ヶ関ビルもなかった。オリンピックの境に、道路、交通事情もすっかり変わった。そのかわり「公害」という言葉が日常用語になった。とにかく、人口は急膨張してきた。わが支部同窓生も当初の五十一名から現在七百名以上の諸兄姉が東京周辺で活躍されているものと推定

されるにいたった。今秋、支部創立二十周年同窓会開催に備えて本部ならびに在京同窓生の皆様(特に三十三回卒高井氏、三十八回卒谷氏にはたいへんお世話になりました)のご協力により急ぎ支部名簿を作成中であるが、大略、次のような人数になっている。▽一〇九 七〇〇〇一七 六〇〇〇一八二五 一四〇〇二六三〇 九〇〇三二一三四 一四〇〇三三三三八二七 合計七七〇名(ただし三八回卒一四七年卒は一部判明のみ) もちろん、卒業生数に比例して増加したわけであるが、殊に四十四年以降は各回七十名から百名近くの卒業生が東京に進出するようになった。関東にもわが母校の名をますます高めてもらいたいものである。 東京支部結成の口火を切られた大北先生もすでに亡く、また、二十七年以来なにかと支部のお世話をねがった柿沢先輩をはじめ、一回卒佐々木、四回卒富田、七回卒野崎諸先輩も他界され二十周年の同窓会にお元氣な姿をお見受けできないのは残念でならない。謹しんでご冥福をお祈りいたします。 最後は、母校のますますの発展と同窓会諸兄姉のご健勝、ご多幸をお祈りする次第である。 東京支部長 服部 友一 (八月二十日記)



丹有支部総会から

丹有支部

木下 隆徳

今年も誌上を通じて、近況を交換する

様のいよいよご発展とご多幸を心より祈りいたします。(梶村 文弥記) 47年度支部役員

- 支部長 梶村 文弥(8回)
- 副支部長 倉垣 貞雄(11回)
- 委員(1回〜20回) 芝 浩(21回)
- 委員(21回〜30回) 平野 芳治(5) 新家 繁(7) 円増 浩之(15)
- 委員(31回〜) 毛勝 富男(22) 新家 盛次(24) 佐藤 浩之(30)
- 稲山 建男(33) 上田 文也(32)
- 茶田 和政(32) 奥山 英央(32)
- 梅垣 嘉位(37) 梅沢 一元(37)

神戸支部

支部総会に参加して

昨年は案内状をもらいながら参加しなかった。先輩の幹事に強く勧められて、二五〇〇円の会費は、私には少々負担だったが、業の大先輩から、今年卒業した後輩まで、支部総会は横のつながりよりも縦のつながりの会である。その中に始めて参加することに私は少々とまどいを感じたのである。 同期の連中とは、何かと理由をつけて度々飲みには行っているが……顔見知りも少なく、心強いだろうかと思いついて、その連中を無理矢理引っぱり出して参加した。もちろん彼等にも案内状は来ていたのだが、欠席の返事を出した後のことである。

七月八日、風の強い日だった。午後六時三十分会場のカーナというスナックは、我々の総会のために貸切りにされて、すっかりパーティの準備が完了していた。 たぶん十五回以上先輩だと思われる方々が数人、名札をつけて話し込んでいた。幹事をやっている先輩は受付で忙しく動き廻っていた。 五十人余りの集まりで、七時前に総会は始まった。比較的小じんまりとした会場で、楽しい雰囲気がかもし出されてい



「第10回生の集い」

とき 昭和47年4月8日 P.M 6.00
ところ 神戸貿易センタービル 24F パーク

戦雲慌しき時卒業し東に西に戦場へと符り出されて以来30年一度も開かれなかったクラス会、3月始め加頭兄と相談し、準備委員として、武内、加頭、大谷二三、横田、田中義一、佐藤、星加、磯崎、近藤、永田、榊井と小生の計12名が集り一応前記の如く決定しました。

思ひ起すと昭和18年9月戦雲慌しき時卒業し東に西に戦場へと符り出されて以来30年一度も開かれなかったクラス会、3月始め加頭兄と相談し、準備委員として、武内、加頭、大谷二三、横田、田中義一、佐藤、星加、磯崎、近藤、永田、榊井と小生の計12名が集り一応前記の如く決定しました。

寂なかに磯崎兄の「インド大魔術」の披露があり素人はなれの演技に万場破れるの忘れた程でした。幸にも「パーク」の支配人に11回の榎本兄がおり心にくいばかりの心遣いにサービスは万点、申し分ありませんでした。 やがて9時遠来の友も残り惜しみつつ来年の再会を約して解散しました。誌上をかりて榎本兄にお礼申し上げます。当日の出席者

誰だったかなと一瞬考える。しかし若き日の面影は残っている。戦後の苦しい時期を、そして風雪に堪えた顔々……やがて福井学長始め諸先生方の顔も揃った武内兄の挨拶にて開会の幕が開きました。

寂なかに磯崎兄の「インド大魔術」の披露があり素人はなれの演技に万場破れるの忘れた程でした。幸にも「パーク」の支配人に11回の榎本兄がおり心にくいばかりの心遣いにサービスは万点、申し分ありませんでした。 やがて9時遠来の友も残り惜しみつつ来年の再会を約して解散しました。誌上をかりて榎本兄にお礼申し上げます。当日の出席者

寂なかに磯崎兄の「インド大魔術」の披露があり素人はなれの演技に万場破れるの忘れた程でした。幸にも「パーク」の支配人に11回の榎本兄がおり心にくいばかりの心遣いにサービスは万点、申し分ありませんでした。 やがて9時遠来の友も残り惜しみつつ来年の再会を約して解散しました。誌上をかりて榎本兄にお礼申し上げます。当日の出席者

寂なかに磯崎兄の「インド大魔術」の披露があり素人はなれの演技に万場破れるの忘れた程でした。幸にも「パーク」の支配人に11回の榎本兄がおり心にくいばかりの心遣いにサービスは万点、申し分ありませんでした。 やがて9時遠来の友も残り惜しみつつ来年の再会を約して解散しました。誌上をかりて榎本兄にお礼申し上げます。当日の出席者

寂なかに磯崎兄の「インド大魔術」の披露があり素人はなれの演技に万場破れるの忘れた程でした。幸にも「パーク」の支配人に11回の榎本兄がおり心にくいばかりの心遣いにサービスは万点、申し分ありませんでした。 やがて9時遠来の友も残り惜しみつつ来年の再会を約して解散しました。誌上をかりて榎本兄にお礼申し上げます。当日の出席者

今年は何きをかえて会食のみの同窓会を開きました。数年振りに奥村日出男、風間鶴壽両先生をお招きして、終始おしゃべりに花が咲き、学生の頃にかえつたみたいに大いに若やぎました。出席の方々は左の通りです。

椿山トクエさん 大和銀行本店調査課
存在とか、初めてのご出席

白井(寺尾) 叶子さん ご主人の勤務
上近々西ドイツ・デュッセルドルフに
当分のお別れにとご出席

北村恵美子さん 大阪北の新天地でクラ
ブとおでんの店を経営

田中(福井) 美栄子さん ビルの経営
をなさっているとか、上のお嬢さん
は経大の二回生

奥村(山路) 美智子さん 主婦業専門
お嬢さんのテニス相手で日焼け顔

松田(大塚) 泰子さん 今年お嬢ちゃ
ん二人が「チェーインガム」の芸名
で「風と落葉と旅人」と「レコーデ
ィング」東京・大阪往ったり来たり
で忙し

松浦(木田) 圭子さん 公認会計士
関西の婦人会計士の代表として大活
躍

岡村千恵子さん 初めてのご出席 主
婦業専門

村田(山本) 八千子さん 夫唱婦隨で
マーシャンのご勉強中とか



和田(釈迦) 澤さん 瘦身で坊やの
教育から犬のお産まで一手に引受け
ておられます。

岩竹(安見) 茂子さん ヤスミストア
の全責任者 若い店員さんの世話を
よくしておられます。

山田(藤堂) 尚子さん 金沢から西宮
へご転宅 久々のご出席

第13回生の集い

とき 7月9日(日)午後1時より
ところ ニュームンヘン南大使館

ンシンされた淑やかな奥さま
田中(佐野) 美代子さん だんな様と
ワン公達に囲まれた静かなお暮し
和裁の名手

藤田(井上) トモさん 主婦業に専念高
三のお嬢さんさぞかし美人と定評
小山和子さん 経済的センス大 帝塚
山でマンション(四階建)の経営

坂中(和田) 良 姉79才 長
男17才 女の細腕で目下
養育中 相続税専門の税理
士 一家の大黒柱

前田(山田) 悦子 本学図書
館に勤務中

欠席のご通知を頂いた方の
中で、曾根(福田) 幸子さん
のことをお便りします。彼女
は昭和40年頃からスモン病で
足が萎え、現在では五十メー
トルも歩行困難の由、このた
び初めて知りませした。この席
上でお見舞いの寄せ書を、し
後日、北島(生駒) 泰子さん
とご一緒にお見舞いに参りま
した。その日ははげしい颱風の日でし
たが、二十数年振りも嘘のように話が
はずみ、卒業後のことや発病当時のこ
となど伺いました。退院以後も日々ラ
ジオ・テレビで英語や独語の学習を続
けておられ、病いに負けず自己をきび
しく鍛えておられるご様子、不幸を

不幸としない力強い生き方に見舞いに
行った私達の方が大いに心を打たれ、
教えられて参りました。斗病の日々が
辛いだけに学生時代の友達がなつかし
いと、お見舞いをとても喜んで下さい
ました。

私達13回生は普通の平穏な学生時代
でなく、戦争中であり、ともに動員生
活や空襲のもとで大事な青春時代を過
したからなのでです。団結・互助の
精神が極めて旺盛です。失業されたご
主人の就職さがしを皆で相談してお世
話したり、立場が異なればそれ相応の
アドバイスをしったりなど助け合っ
ける仲間なのです。どんなに年を取っ
ても、会えばすぐ学生時代に戻って忌
憚なく話合え、相談出来る仲間なの
です。まだ一度も同窓会にご出席され
たことのない学友の皆さん、是非、一度
はお出まし下さい。現況なりとご連
絡下さい。幸わせな者の一駒々々
を、お互いに心のより所として助け合
い、支え合って行くことではありませ
んか。次回からは遠慮なく気軽に出席
下さるようおすすめていたします。

風間先生からお礼にと一首頂戴いた
しました。

若き日の 面影今も残しつつ
昔のかがり あたり払うも
(手記 坂中良・前田悦子)

た。長島支部長、米濱の渡辺理事長、藤
原先生、比企事務局長のあいさつがあ
り、パーティにはいった。

私は、藤原先生には経済原論を教わ
り、比企事務局長とは、かれが二回目の
勉強をされていた当時、机を並べた記憶
がある。

大先輩の寄附があったことにもより、
非常に豪華なテーブルだった。ホステス
のサービスのせいか、**「もも」**だけはと
って帰れよ、**「と」**と言った幹事のせいか、
今日は順調に飲んでいる。参加するまで
は、少々とまどい気味だった私も、楽し
い、なかなか雰囲気につきり溶け込
んでいた。

戦争中の学校の状況や、昔の授業中の
話、先生の話、等々、マスプロ教育時代

に学んだ私には、想像もつかない。血の
かよった話である。酔いも手伝って、手
当り次第大先輩にあいさつにまわる。そ
れぞれ、困った時には俺の所へ相談に来
いと言ってくれた。

利害をぬきにした関係、それぞれ時代
は異なっても同じ学校の釜のメンを食っ
た仲、という感じで、私には心強く思わ
れた。

名刺が沢山集まった。それぞれに肩書
きがついている。私の将来を考えると、
ちょっぴり不安はないではないが、頑張
らなければ……と決意を新たにした次第
である。

しやべって飲んで、またたく間に一時
間三十分が過ぎた。藤原先生を中心に校
歌を合唱して閉会になる。それから先は

……勿論大先輩にご一緒して神戸のネオ
ンの中に……。

参加する以前とは裏腹に、来年も友達
をさそって心す出席しようと思った次第
である。(T・I生)

なおり、ご参考までに現在における姫路
支部の役員は次の通りです。

支部長 永川 仁一(六回)

副支部長 柳内 明(五回)

会計幹事 福永 好文(二十九回)

幹事 長谷川 孝(二十二回)

米田 泰造(二十二回)

経大同窓の皆様、お元気ですか。岡山
も今年の四月、待望の新幹線が開通して
大変なことです。宣伝がききすぎたのか
レジャーブームに血迷ったのか観光客の
ラッシュで岡山県民大いにあわててお
ります。受入態勢が出来ていないところへ
国鉄と県、市の宣伝が激しいのでせつ々
と米岡された方々にも不満ばかりを味わ
って帰られておるのが実情です。

さて、岡山支部も同窓生四百余名の多
数になりました。これも黒正先生の故郷
ということもありますが、経大の実質的
向上のもたらすゆえんのものと思ってお
ります。

毎年三月頃同窓会岡山支部総会を開催
しているのですが、今年は私事で全く申
し訳ありませんが勤務している病院の増
築工事が七月頃迄かかり残務整理その他
で今なお開催できず同窓生の皆様に申し
訳なく思っています。何とかして十一月
中には開催したいものと目下計画中です
のでお話し下さい。

したがって瀬江に載せられる支部便り
もない有様ですが岡山支部の者一同元氣
でそれぞれの職域でがんばっておりま
す。

新幹線開通の岡山方面に足を延ばされ
になります。

早いもので松江へ転動して二年余り
になります。

昨秋、同期の陰下君が社用で当地へ
来られ、やはり同期の津田君と、食事
をともした際、山陰地区に同窓
会支部結成の要請をうけ、早速名
簿から拾いあげたりで作業もある
程度進みましたが、何かと雑用に
追われてついでにのびとなり今日
に至っています。

今回の編集子の原稿依頼もその
辺の督促の意味もあるうかと(事務
局長註、「北から南から」のため
の名簿よりも無作為抽出がたまた
ま陶山さんのところに出されたもの)
早速一〇回卒の神田 馨氏(松江市嫁
島町 神田新市商店勤務)、および津

最後に母校の発展と同窓会の団結を祈
願してやみません。
(岡山支部長 大森喜多志)

はやいもので姫路支部が結成されて今
年で満二十四年になります。当時は、人
数も少くまとまりも悪かったが、年に一
回ないし二回は必ず総会を持ちお互の友
情を確かめあいました。その後、同窓生の
人数が急速に増加したとマンネリも手
伝い、とぎれとぎれとなりましたが、若
手の役員を起用しやすさでも前進に向

けてほしいこと。(これについては今更
何も申し上げません)

三、大経大PTA(父兄会)を開催して
はかが。

四年在学期中、一回だけで良いから都
市別に父兄懇談会を開催し、勉強、就
職、クラブ活動、学生運動、学生生活そ
のものの質問に答えるようなことに
なれば、大学の経営もプラスとなるし、
学生の質も向上する。(慶応大で実施)

四、教養課程二カ年間で、茨木学舎を建設
しここで勉強してはかが。最近の学生
はフライングに弱い。現在の環境とくら
べどちらが良いか、はっきりしている。
環境の良い場所へ通学したいことは現在
の大学のパターンである。四年間おなじ
場所へ通学するより効果的であること
も考えられる。孟母三遷の例もあるよう
に、学生の質を向上させるには一案と信
ずる。

五、「就職の良い大学」を強力に推進し
てほしい。

最近の学生、父兄は「就職するために
大学へいく」ことが明確である以上、就
職部をもっと充実してほしい、もちろ
ん担当の先生方は非常に熱心に取り組
られ、涙ぐましく申し込みに来ていないか
ら、銀行か申し込みが来ていないか
と自由応募に来た学生がいない。就
職部の陣容を今以上に充実してほしい。
以上思いつくままに記しましたが、同
窓会理事者を通して、大学当局に検討方
をお願いしたい。
(支部長 九回生 佐々木一義)

岡山支部

広島支部

一、支部総会 年中行事の一つでありま
すが、こしも広島地方入試に合わせて
二月十三日、市内西白鳥町の瀬戸内観光
ホテルで開催いたしました。当日は大学
側、大槻先生、建林先生、同窓会磯野理
事、米濱として元教授の河野実先生、同
窓生を含めて五十名が一室に会し、盛況
裡に昔話に花が咲きました。古い先輩で
は四回生の佐々木聡氏、現在東城町で酒
造業をやっておられます。河野先生も広
大は昨年退官されましたが、広島公益
委員長として大活躍しておられ、相変ら
ずの名調子振りで、お酒を飲まされず、コ
ーラーで最後までお付き合いしていただき
ました。いつものことですが年々若い同
窓生が増えたことは大経大同窓会ではご
益々若いエネルギーを中心として伸び
てゆくことが感ぜられ、頼もしい限りで
す。



広島支部総会から

の広報会館で開催されました。福山分会
は八回卒の橋岡先輩が中心となって、同
窓会の発展のため意欲的に尽力しておら
れます。当日も三十六名の会員が参集
し、経大の応援歌など合唱し、思い出の
一日にふけりました。

三、また、大経大マンドリンクラブ演奏
会が去る七月二十二日、福山市民会館で
開かれましたが、同分会各位の熱意で観
客八〇〇名を集め、成功させました。

二、思いついたことなど

一、支部エリアの再編成 広島の場合、
前出の福山分会がそうであるように、行
政上の県単位には問題点がある。したが
って作業としては卒業生分布図にもとづ
き、エリアを検討して決定することは①や
たい。この場合、前提となることは②や
たらに支部がふえることは、本部の予算
上こまること。③将来、交通の変化によ
り例えば新幹線、縦貫道などで時間が短
縮されること。④エリア以外の支部は対
象とならないこと。(例えばグループで
支部を結成しようとするなど) ⑤
ルールを作成し、これを基準として検討
すること、いやしくも力関係で結成さ
れてはならないことなどである。

二、同窓生の子弟の入試にハンデいをつ

山陰地区支部 結成について

田君(松江市殿町 津田家具店社長)
とはかり支部結成を急いでいる次第で
す。鳥取地区では、二回卒亀井寛氏
(鳥取市 亀井堂社長) 等を中心に会
合をもたれたやに聞きおき、山陰
は東西に広範な地域にわたります
ので

一、鳥根県および鳥取県の米
子、境港程度を範囲とする。

二、できるだけ早い機会に第一
回会合を開く

といった方針ですが、山陰地区在
住各位のご意見を上記三氏または
小生までお寄せいただければ幸甚
です。

一八回卒 陶山 益三

山口支部

二月二十七日、今まで続いていた異状
なほどの暖かさは一変してポタン雪の降
る寒い日になった。昨年の宇部に引き続
いて山口県のはほぼ中央部に位置する防府
で山口支部同窓会が開かれた。立地条件
からかなりの人数になるのではないかと
受入れ体制を整えて待機していたが、結
局集まったのは二四名(前回より多い)



山口支部総会から

全く惜しい限りだったが皆それぞれ多忙中とのこと、無理もいえず、せめて集まったものだけでも楽しい一日を過ごそうと張り切った。また、遠路はるばる本部から若さいっぱいの稲福常任理事が若い世代の代表としてこれらも盛りあげた。

小田支部長の力強い挨拶、各人の自己紹介、三回卒から三五回卒とバラエティに富んだ世代的集りで話題も「われらの経大時代は……」「ぼく達の頃は……」と皆経大時代の良き思い出話、自慢話になり、いままらながらわが母校の層の厚さを感じ自信がわき、また、責任を感じた次第です。

最近の経大は……というところで稲福常任理事の近況報告によると、他校の学内紛争、休校記事にもかかわらず、わが母校は今この静かな毎日を送っているとのこと、ホッとした気持ちつかのま、いろいろと問題が内在しているということとを聞くとはなして安心して喜んで良いというわけにもいかず、後輩諸氏の賢明なる行動を期待するとともに経大の伝統をしっかり守って欲しいと思えます。話があらぬ方向に発展して「ゴメンナンセ」まあともかくにも現在は静かな学園というニュースは全員喜んでいてる次第です。三時から六時まで会食(会飲というべきだ)をし、最後に学歌を歌い、パンザイ三唱をして解散(さあ、これからは大問題だ)。

なほ最後に、小田支部長さんにはご静養中にもかかわらずおこし願ったことを深く感謝しますと同時に、次回は今回より

県下の同窓生諸君にお願いいたします
岐阜支部を育て上げるために、あなたのご意見を聞かせ下さい。あなたの意見を、協力が支部発展の基礎になることを確信しています。私一人では何もできません。「支部だより」をご覧になっていませぐお電話下さい。

昼間(〇五八二)六三一―二二六(代)
丹羽商株式会社 丹羽 好理宛
夜間(〇五八二)三二一三三〇自宅

和歌山相互銀行支部
職域支部：同窓会支部として必ずしもそのすべてのインフォーマルな形骸でなくとも、かといって開かれた理事

和歌山支部飛躍発展のために職域支部発展的解散お届け
『経大の入試が、福岡市でことしも行なわれたが、みぞれもようの寒い日、城跡にある予備校の試験場にお手伝いにてかけた。社会と倫理の試験が始まっていたが、受験生の間にまじって、そつと問題をのぞいてみた。』

『愛の種類』そして『理想主義哲学の根本精神とは……』といったテーマに、受験生が黙々と取り組んでいた。一はしなくも、三十数年前の学生生活を思い返してみた。そのころ倫理は渋谷講師、経済原論は青山教授、そして哲学は久野教授。世相は支那事変が始まったころ、軍閥が頭をたげ、ひたすらミリタリズムに、まっしぐらに向っていた。軍事教練が激しくなり、学生の断髪令が下った。淀川べりで学徒の勤勞奉仕がつづいた。なんとなく人間というものの、生きるというなことを考えるようになったが、それにして、『愛』とは、いったいなんであるかと思いつめてみた。分るはずなかつた。南田辺の杉本町かいわいの下宿で、小説や詩を読んでは、ごろごろし

九州支部

昭和四十七年度の九州支部総会は、二月十七日行なつた。ところは福岡市大名町の旅館「むらさき」。九州支部は、こゝも経大の出張入学試験が福岡市でも行なわれたので、毎年試験の最終日にタイングをあわせて、総会を開いている。経大入試は、九州地区ではことしから、福岡市と鹿児島市の二カ所で行なわれることになったが、福岡市で三百四十六名、鹿児島市で百十名。つまり九州では四百五十六名が受験したことになる。十数年前に経大の出張入試が、九州で始めて行なわれた時は、三十名あまりだったが、年とともに受験生がふえてゆくというところは、経大の発展を象徴するバロメーターといえようか。

ところで、経大から玉井教授を入試部長として、上岡助教、それに林・新井の四氏が出張、九州支部からは荒牧と、帰省中の学生の応援を得て、入試を滞りなくすませ、ホッとしたところで、支部総会を開いた。経大側から学生問題などの近況をきき、博多のふぐさしなど賞味して、なごやかなひとときをすごしたわけだが、今後とも大阪経大のいっそうの発展を同人とともにわがう次第。

福井支部

人間関係について
さきに、同窓会比企事務局長より殿江

の席上でも職域支部について論議されたことがありますが、しかしその時点においては、大方の結論が得られず、また職域支部の支部長として同窓会の発展という根本的理念から立て眺めるとき、必ずしも同窓会の発展のために阻害されている現在であるとは考えません。むしろ、その地域の不活発な本来のノーマルな支部がありとすれば、それ以上に積極的のそ地域の啓もう活動のためのパイオニアたんとするものとすれば、たとえスケールが小さくても存在価値があると自負し今日にいたった訳であります。しかしそのことに固執することは、むしろ大和歌山支部の発展のために考えなくてはいかぬ問題であると考え、じらい、和歌山支部と合流し、大局の上で立つて発展的解散をする意思表示をいたしてききました。殊に若き大経大卒業生を中心に和歌山支部もこのことを含んでより活発な積極的活動のた

ていた。小説といえ、阿倍野橋の古本屋で買った島本健作の『生活の探求』、伊藤整の『典子の生き方』、阿部友二の『冬の宿』がおほほげに記憶に残っているが、ある日、藤原教授の家に遊びにいったら、『アメルの日記』(岩波文庫)を読まないかとすすめられた。この本は学校を出て、新聞記者になり、当時の東条軍閥時代に、徴罰召集をうけてソ満国境に追いやられたが、そのとき、『アメルの日記』と『パスカルのパンセ』を戦争にもつていった。生きのびて帰ってきて、それから三十年。まだ『愛』というものは分らないが、誰かがこんなことを言った。愛とは知なり、知とは善なり、善とは愛なりというけれど、つきつめることができないならば、愛というものは、人間が人間のためのヒューマニティではなかるかと思ふのだが……。人間愛というと言いきださうか……。ある日、試験場のかたすみで、ふと、そんなことを想つた。少年老易く、学成り難シ。諸先輩、諸兄のお教を乞う。

試験場のかたすみで
六回 荒牧 博之

発行につき原稿依頼の案内があった。毎年のことながら、その度ごとに関係者ご一同のご苦労のほどを遠察し筆を執つた次第です。

私の如き視野の狭い者が今さら良き人間関係等と、誠におこがましいことだが一口に「人間関係」といっても、職場における上司、同僚、また、身近な関係として親子、兄弟、夫婦等々の如き家庭内における間のことと当然含まれるし、まして社会においては、ありとあらゆるすべての場において私達は毎日毎日、人と人とのつながりの中で生活しているのですから、現代に生きていく人々は誰しもいかにしてその人なりに良き「人間関係」を保つかということにたえず心を使っておられることかと思われまふ。

それこそ、一人一人の人間が、お互いに違つた個性を持ち、異なる環境の中に生活して居る以上、当然考え方も異なり、まして誰もその心の中までは到底知ることではできません。

しかし、その人のすべてを理解することは不可能であっても信頼や愛情の度合

17・19回生 NEWS

二年目ごとに行なわれる我々第十七・十九回卒業生のつどいが四十六年八月七日午後五時より山中荘にて開催されました。

神戸・京都はいうに及ばず遠くは兵庫の山奥などから約四十名が集まり、昔懐し風間・藤原・井上三先生を囲んで楽しい、一夜を過ごしました。

学園を去つて早や十九年余、皆さんだいたい白髪がふえた人、少々薄くなった人、しわのふえた人など、やはり寄る年は隠せないよう、話は子供のころ、女房のことなどでだいたい世帯してまいつたようでしたがしかし良き友、良き夫のようでした。

どうぞ皆さん是非このつどいにご出席下さい。思わぬ人に会うことが出来ることと思つて。次回は四十八年八月に開催する予定です。

―平田五郎記―

め合同(準備)を続けているようであり、ねがわくは同窓会本部より積極的な働きかけにより従来の和歌山支部の発展にご支援協力をお願いいたす。

ここに発展的解散(職域支部として地方同窓会発展のために努力してきた任務は終つた)のお届けをいたします。

昭和四十七年六月二十五日
和歌山相互銀行支部長 齋藤 照雄
渡辺理事長殿

大阪市役所支部
母校のますますのご発展をお慶び申し上げます。

大阪市役所支部も現在会員数八〇余名の大世帯に成長しています。昭和二十五年に支部として発足しました当時は会員も一〇名に満たない少数でありました。支部が発足した年に生れた人が母校を卒業し、当支部の会員になっていることを考えますとき、支部も年輪を重ねてきたという実感とともに、その歴史と伝統があらためてわれれれ会員の前にクロージアップされている次第であります。

ここまで職域支部として育てあげてこられた歴代支部長のご努力も決して見逃しにできないものであります。

さて、支部総会は年一回の定期総会と随時開催される臨時総会にわかれていますが、本年の定時総会は二月三日、北区内の「大東方」で母校から藤原先生、同窓会本部より比企事務局長のご出席をいただき盛大に開催されました。席上母校の現況と将来の展望をお聞きしながら懐旧談に花を咲かせ、また職域支部の特色としてお互の職場における情報交換等、実のある話の中に一層の親睦を深め終始なごやかなうちに総会を閉じることができました。なお会員より一泊による臨時総会開催方提案され満場一致で賛成されましたので、目下幹事のもとで具体案検討中であります。

終りに同窓会会員皆様方のご健康と一層のご活躍を祈念いたしまして、まことに簡単ですが支部近況お知らせいたします。

大阪市役所支部長 村上 静夫

により、自己中心的な考えを捨てて少しでも相手の立場に立つて考えるように努めることができれば、いくらかなりとも相手の心に近づいてゆき、ある一部分だけでも理解することが出来るのではないかとと思われまふ。

こうしてお互い少しでも理解し合うようになれば、好ましい人間関係が生じてくるのは当然のことかと思つて。しかし、このように理屈ではわかつたとしても心がなかなか思うように働かないのが私達の現状だろうと思つて。だが、われわれ立場はそれぞれ異なると大阪経済大学という一つの大きな母体を通じ、とうとう社会の一員として価値ある生活をなして居る訳でありますから、それぞれ個々の立場に立ちながらもわれわれの個性を通じての機会に思いもあらたに深く自己をみつめ、かつ自分を励ましたるに善意の中で先輩を敬愛し、後輩を指導して平凡な中にもいつも豊かな暖かい社会生活が営まれるよう最大の努力を払いたいものであります。

そして、常に広い分野にわたり良き人間関係を保ちつつ、大いに社会に貢献すべきであります。最後に、同窓生各位、全国にわたる同窓会各支部皆様方深いご友情とご理解の下で、さらにより良い強固な人間関係を樹立していただきたく。また、わが大阪経済大学同窓会ならびに各支部の一大ご発展と会員皆様のご多幸とご活躍あらんことをここに心から願ひいたすとともに、母校のますます繁栄を祈つてやまないものであります。

福井県支部長 内田 甫

同窓会の皆さんお元気ですか。「支部だより」にはじめてご挨拶をさせていただきます。岐阜支部は昨年発足したばかりで、支部とは名目だけで何もできず現在、ところ支部のあり方について模索中でありまふ。

しかしながら、先輩支部の輝かしい実績を見習って早く一人前の支部に成長するよう努力するつもりでおりますので、今後よろしくご指導下さいませよう願ひいたします。

岐阜支部
同窓会の皆さんお元気ですか。「支部だより」にはじめてご挨拶をさせていただきます。岐阜支部は昨年発足したばかりで、支部とは名目だけで何もできず現在、ところ支部のあり方について模索中でありまふ。

新企画誌 「中小企業季報」発刊

かねてより、本学中小企業経営研究所(所長藤田敬三教授)では、内外の中小企業に関する文献・資料を鋭意収集し、研究者への利用をはかってきたが、このたびさらに、同文献の紹介に重点をおいた左記季刊誌を創刊(昭和47年4月刊)した。

■ 同誌は、経済の国際化時代にふさわしい、今後の中小企業のあり方を示す論文を毎号各2篇掲載するとともに、関西の各大学に所属し中小企業を専門に研究している方々を中心に、文献の「解説および書評」(各号25~30タイトル)を、また当所資料室による四半期ごとの「中小企業に関する文献目録」を掲載している。

■ 同誌は、全国の中小企業の研究者はもとより、各種指導機関、金融機関をはじめ、中小企業経営にたづなわる方々に広く活用されている。

■ ご希望の方々は、直接研究所までお申し込み下さい(年間送料とも1,000円)。



あのころのこと

・6 中期

- ▽……この企画は、卒業生の口づてに伝える学園の歴史である。……△
- ▽……この学園も、創設されてすでに三十有余年、その間幾多の……△
- ▽……波乱、幾多の変せんを経て、いまや大阪経済大学として、……△
- ▽……播ぎない基盤の上に立派な校風をうちたてた。思えば浪……△
- ▽……華高等商業学校にはじまり、昭和高等商業学校さらには……△
- ▽……大阪女子経済専門学校、大阪経済専門学校、そして大阪……△
- ▽……経済大学へと五つの大きな変動期を経過。それぞれに苦……△
- ▽……難の道ではあったが、苦しみにつけ悲しみにつけ……△
- ▽……また喜びにつけ、いまは楽しい思い出として、それぞれ……△
- ▽……卒業生の胸に暖く宿っている。その折り折りのエピソード……△
- ▽……ドーそのエピソードを綴り合せたのがこのページである……△

学舎新增築とマスプロ化

(二十六回〜三十四回最終回)

人間の歴史の中では、何事によらず波はある。政治、経済、社会、そして人それだけでも――

大学として例外ではない。語りつがれてきた、わが学園の歴史も、ふり返つてみれば平坦な道ばかりではなかった。何回かの節があり、その節を経過することによって一回りも二回りも大きくなり、そして枝、葉を繁らせてきたのである。

今回の「あの頃を語る」は二十六回から、三十四回までの九年間。今年の卒業生が三十八回であるから、最終回ということになる。十年一昔というが、もうこの九回だけで結構歴史の一コマである。波の一つも二つも経験している。九回を一室に集めたことは、少し先を急ぎすぎたかも知れない。この企画が大体三回から五回を区切ってお招きしてきたのでそれはそれなりに充実していたが、今回は最初から多少無理があった。お聞きした内容は非常に豊富で、且つ今日までのあの激しかった学園紛争を解く鍵をいくつか提起されていたのだが、果して、これだけのスペースの中に、うまくまとめたいであろうか、多少の不安はある。そのへんのところは、企画のまずさということとご勘弁をいただきたい。

ところでこの約十年にわたる学園の歴史の中で、やはり特筆されるものは、学園施設の新増設による規模の拡大と、それによる教育のマスプロ化の問題がある。マスプロ化の問題は一人わが校だけの問題ではなく、広く大学一般の傾向ではあったが、わが学園においてもようやく三十七、八年頃からそのハシリを見せ、マンモス化への一途を進めることになる。マンモス化にともない台所は多少うるおい、経営面ではゆとりが出来て、諸施設の拡充強化にも不安はなかったが一方の教育の内容の面では、激増する学生の数に対し、教授陣の絶対数の不足は授業内容の低下につながり、ひいては教授と学生の人間関係の断絶というところまで追込んでしまおうのである。

第二学部の危機

二十六回生が入学したのは昭和三十一年、マスプロ教育という言葉は広く使われていたが、まだ本学にとっては、さし

て深酷なものではなかった。学生数も一学年五〇〇人足らずで、それなりの連帯感もあったし、教授との交りも深かった。ただ、経営的にはかなり苦しく、中でも学生の集まらない第二学部の卒業生を採用しない方針を打ち出したのもこたえたが、何しろ入学試験をやっても二部の応募者は殆んどない。ペイラインの二五〇人がどうしても集らないのである。前年はやっと応募者が一三〇人あったが入学者は九〇人となり、ついに二次試験はおろか、第三次試験までやらざるをえないはめになってしまった。それも試験場を金沢や広島においてである。これははいかに苦肉の策とはいえひどすぎた。二部閉鎖の声が出るのはいさひどすき理からぬところがあった。

しかし、働かざる者には門を閉してはならない。受験者が集まらなければわれわれで集めようではないか、また第一学部と授業料が同じなのもおかしい。経済的に苦しい第二学部の学生には授業料を下げるべきである。こうした一連の第二学部の危機を救う運動が学内にわき上った。

入学志願者を集めるためには、学生が願書を派出抱えて出身校はもとより地方の高校を尋ねたり、試験場の設置その他にもそれなりの努力をした。

授業料の問題にしても学校当局と何回か話合った結果、当時の金で三〇〇〇円ほど下げた。以来、今日まで第二学部はその恩典を受けつづけているが、むしろ

当然のごとく遅きに失したきらいさえあった。

この運動は一人、第二学部だけの問題ではない。第一学部も全面的に協力をし、学生打って一丸となった運動が功を奏し、無事第二学部閉鎖という危機を乗り越えたのである。

また、この一連の運動は、第一学部と第二学部の壁をうち破ることにともなった。とかく昼と夜は、すれ違いが多く、一堂に会することもなく疎遠になりがちだったが、第二学部の救おうという純粋な気持が、あらゆる障壁を取り除いてしまった。それなりに意義のある活動だったといえる。

当時の政治問題といえば、全国を揺り動かした三十五年の安保斗争がすでに火を吹いたが、これさえも意識的にさけて、まず学内の統一が優先された。

安保斗争もやらなかったわけでは無い。ずいぶんと激しくやったが、安保斗争の山を迎える頃は、ようやく短時間であったが学内もまとまりを見せ、より組織的に、より強力に運動を展開することが出来たということである。この頃になると、もう以前のことの方がそのように学生の意識は統一されてきた。学生大会の集りもよしいし、各クラブの会議にしても、一つのクラブも欠けることなくオール出席というのもまれではなかった。

生協と学生生活

就職は二の次としても、勉学に情熱を燃やす学生も多かった。

就職さえもままならない不景気な時代である。学生生活も自ずと地味にならざるをえなかった。貧困な学生もまた多い。田舎から出てきて下宿住いの学生には、学校の食堂が唯一の栄養補給源だった。そんな中で、栄養失調気味の学生が出たり、粗食のために歯が浮いてくる学生も出てきた。食堂の改善が叫ばれるのもごく自然の姿だった。当時食堂は一般業者の経営で、管理委員会をつくり、学校側もまた学生側からも代表を送って、管理運営にあたっていたが、そこは昔からの因縁もあって、学校側が必ずしも学生の味方ではなかった。この起りは些細なことであつた。学生側が最低の栄養補給のためにパンと牛乳で二〇円の申し入れを行い、納得すくで学生新聞にも掲載したものがこれが土壌場になつても実行されない。学生側が怒るのも無理がない。学校側も資料の提出を求めたり中に入つて調整したがラチがあかない。筋はたしかに学生側の方が通っている。スツタモンダのあげく、食堂の管理運営が学生側にゆだねられることになるわけだがここに誕生するのが生活協同組合である。

団結へ盛り上がり

そういえば、この問題が起る前まではとかく学内はまとまりを欠いていた。自動車部の問題や、自治会の経理の乱脈など不肖事件が相ついで学生はテンデンプラベラ、なにをやっても人は集まらず、学生大会も流会につく流会、完全に一般学生とは遊離してしまっていた。

これではいけないということで、つきにはじまったのが自治会の再建である。監査を徹底的に行い、ウミは出しつくしまず経理を明朗にし、ついで各クラブの統一が行われた。

勉強の方も、それなりによくやった。さきにも書いたように第二学部の就職は日経連から締め出されようという時代である。一部学生として就職は容易ではない。最後の歯止めのために教職課程を取る学生が七割近くもあつたのである。その辺の事情はわかってもらえるだろう。

このほかでやはり書き残しておかなければならないのは、大学祭のことであり本学で行った西日本ゼミナールのことである。

大学祭という言葉がはじめて使われたのが三十七年。それまでは春に芸術祭が、秋に体育祭がということで二本建て、学術関係の影は薄かった。

そんな中で、学術祭も同様に格上げして大学祭と銘打ち三本建てで行うことにした。それはそれなりに大きな実りとなつた。

大学祭のこと

学術関係も、その頃になるとようやく研究にも成果を上げ、どこに出しても恥かしくない実績を積み上げていた。そのことは、あとにも述べる経済学部の西日本ゼミナール大会にもその中核となつて活躍したこともわかる。

この学術祭が一枚加わつたことで大学祭にも確かに厚みが出来た。芸術祭、体育祭には楽しいお祭りの要素が強い、ここにアカデミックな一本の筋が通つたわけである。当然全学的な盛り上がりを見せることになった。

この楽しいお祭りには、文字通り青春の情熱をたぎらせて、もろにぶつかつた。芸術祭には学生と父兄、それに一般の人達も加わって和気あいあいのうちに時間のたつのを忘れたし、体育祭は体育祭で、競技にファイアーストームに若さ



上から学術祭、芸術祭、体育祭の一コマ

のありつたけをぶち込んだものである。その一コマ一コマは、今でもはつきりと目蓋に浮ぶし、一生生涯忘れぬ感激のシーンでもある。

それに、われわれの回にとって、先程も少し出た、西日本経済ゼミナール大会の内容を評述して大きな誇りであった。大会の内容を評述して余裕はないが、その成果は、新聞や雑誌にも高く評価された。

その他日本経済ゼミナール大会をはじめ各地のゼミナール大会にもごぞつて参加したが、どこでも経大ここにありという気概でのぞみ常にインシヤチブをとり経大の名を高からしめたものである。そういう意味では、今回の題名は中興期としてもよいと思う。

学舎新築とマスプロ化

このように地味な中にも内容的に充実していったのが三十七、八年頃まで、そのあとは冒頭にもおとわりましたように学舎をはじめ学校施設の拡充強化が続き学生はそれにもなるマスプロ化の波をもるにかぶることになるのである。

年代的にそのあとをふりかえってみると、昭和三十九年九月に図書館一、七一一

西日本ゼミナール大会から



「平方メートル、研究室・本館四、一六八平方メートルが完成。四十一年一月には新教室(D館)四、七〇七平方メートルを増築、同じく六月に学生生活指導会館(学生会館)三、七〇六平方メートルが完成、四十二年六月には体育館三、五七五平方メートルが完成、同じく十月には茨木市郊外新ランド(野球場、トラック)三、七、三四三平方メートルの基礎造成完了、十二月には別荘の土地二〇、四八八平方メートルを買収、借地二、四一四平方メートルをあわせて造成に着手。とまことに目を見張るばかりの進展ぶりである。外形的には、まさに大学の偉容なれりといったところである。

大学の器が大きくなれば、学生の数も増える。三十九年に経営学部の増設認可ということもあって、この頃から学生数は急ピッチで増えていく。三十一年、三十二年の二部入学志願者に苦しめられた時代は、一学年がやつと四百名前後、これが三十五、六年には七百から九百人に三十七年には千人を突破、この集りねがった最終回三十九年の入学者は何と千五百人近くにもなるのである。

この激増する学生数に比例して先生の数が増えれば、問題はない。ところが現実にはそうもいかなかった。当面弊害はいろいろなところに出てくる。

D三六号教室といったマンモス教室での精一パイの講義、ゼミも週二回、ひどい先生になると週三回というのものもある。八十人九十人を抱えたゼミナールで、それだけの教育効果がある。ゼミといえは大学教育の生命でもある。それが顔もおぼえられないとあっては、意欲が減退するのむりからぬところである。

もうこうなれば、先生と学生の人間関係のふれ合いなんてものは期待出来ない。教授は一介の労働者にならず労働過重にあえぐスピーカーと化し、学生はまた、この講義を写す機械になつてしまったのである。事実、この頃になると、

本当に学問に情熱を燃やすす学生は十分の一、あとの十分の九は、何となく学校にきて、何となく授業を受け、なんとなく卒業出来さえすればそれでいいという無気力学生となつてしまった。ここにも、それ以後の学園紛争につながる下地はそれれ醸成されたつた。

大学のマンモス化は、真接つながらない問題かも知れないが、一つどうしてもつけ加えておかなければならない問題に、大学院の問題がある。

大学院経済学研究所(修士課程)の設置認可があったのが四十一年、この時の入学者はただの一人、ついで四十三年には大学院経済学研究所(博士課程)の設置認可が下りたが、この時も入学者は一人だけ、例の支那経済研究所のあった古びた建物で、壁は落ち、あかずの窓で、大学院とは大学のアクセサリかと憤慨もしたのだが、この大学院の設置で大学の形態はすべて整ったといえる。

学館問題と先生の思い出

教授と学生の間が離反してしまつて、心のふれ合いがなくなつてしまつたと書いたが、すべての先生がそうであり、まったく対話がなくなつてしまつたかといえ、そうではない。全体の傾向としてとらえただけで、個人的に敬服する先生は多かつたし、親身に学生のことを心配する先生も多かつた。

こうあらわした先生と学生の心のふれ合いが如実にあらわれたのが学館問題である。学館——つまり学生生活指導会館——学生生活館のことである。完成はさきにも書いたように四十一年六月とところが建つには建つたものの、その管理運営の問題でもめぬき、いつまでたつてももちがかない。大学祭は近づいてくる。そこで学生側は十月二十一日までに回答がない場合は実力行使して、学館を自主的に使用する」と大学側に迫つた。しかし大学側からは何等の回答はない。そこで窓硝子を破つて学生の回答は渡すからが、その前に、梅田先生から鍵を渡すから無茶をするなという申し出があった。しかし学生側は、もしこの梅田先生の申し出を受けて学館に入った場合、学校側から梅田先生が責任をとられたらどうなる。梅田先生だけは悪者にしたくない。あく

この原稿は、左記の方々にお集りいただき、いろいろとお話をおききた中からまとめたものです

第26回	辰 本 博 己氏
第27回	重 森 義 夫氏
第28回	平 尾 哲 男氏
第29回	大 門 寿 郎氏
第30回	寺 岡 利 之氏
第31回	欠 席
第32回	欠 席
第33回	松 竹 喜 満氏
第34回	比 企 重氏

先輩達からは黒正イヅム、ということをお口をすっぱくしていわれてきたが、その形骸化されたものを受けつぐよりも、われわれにとっては、いまに生きる梅田イズムを称揚する方が、どれだけか学校のためになると思つたことだつた。

梅田先生を出して、浅沼先生を出さぬ手はない。先生にご紹介をかけた学生は多いし、先生も自分を犠牲にしてわれわれの面倒を見ていただいた。

福井現学長、藤田前学長、大北先生、藤原先生、倉辻先生などあの頃のことではいつも出てくる名前である。それにつけ加えるに何ももない。

その他、亡くなられた与田先生、講義は社会保障論だつた。この先生の授業だけは、いついっても教室は満員だつた。講義に熱があり、学生をひきつける何かがあつた。社会心理学の後藤先生、この講義も同じである。無気力な講義の多い中で、やはり光つていた。印象に残る先生である。

この他にも現職の中に思い出の先生は多い。しかし残念ながらスペースがつきしまつた。

クラブ活動のこと、特に運動各部の戦績など、まだまだ書き残したことも多いが、あとはタイプにしまつておくことにする。希望のむきは事務局まで (文責 松本)

この「八号」から「ゼミの集い」欄を設けましたので大いに活用してください。

まず今回は、現在、大阪経済大学でゼミナールを担当されている六十三名の先生がたにおたずねしたうちお返事をいただいたものを集録したものです。

〔参考までに、事務局より六十三名のゼミ担当の先生におたずねいたしました事項は、

一、最近ゼミナールOB会を開催されたことがござ

ゼミ短 信

いますか。

二、開催しておられる場合はその世話役名(卒業年次)をお知らせ下さい。

三、先生のご近況につきまして卒業生に一言お知らせ下さい。

では、この紙面の今後の育成にご協力ください。

(事務局・アイエオ順)

稲原ゼミ 稲原 康雄先生

一、最近ありません。

二、多数ありますので...

三、大学の「嵐のあの静けさ」のせい、か、今のゼミ諸君は、一段と大人になり、討論に熱をおびることはあつても常識の枠を破ることなく、コンパは子供くさいでもいのか忘れてしまつたようです。今冬、二月の東北ゼミ旅行(難島ジリスの一端として、中井君の「穴」に恵まれすぎたせいもある)か、万事順調にすぎ、ハラハラしたり、ヒヤッとしたり、窮地に立つて責任者として知恵を搾り出す必要は絶えてなくなりました。引卒者として、けつこうなことではあるが、思い出も薄くなりました。顧みれば、船中、暴力団の組長に「お前がボスカノ」といって首を掴まれたり、「話がある」とボーイのたまりに連れ込まれたり、別れのテープにとトレットペーパーの端を持たせられ置き去りにされたり、夜遊びさせぬよう宿の玄関で夜通しがんばつていなければならなかったり、あるいは、「雲仙」の寝台車一輛を拝借して夜通し飲みあかりたりは、いつのことだつたか?。今では車掌に一言注意されるだけで優等生のように就寝しています。

マイカーと公共交通」をまよめの意味で、本年度交通学会研究年報に掲載、また、昨年度外書購読でテキストに使用した、Helen Leavitt; Superhigh way-Superhigh, N. Y. 1970.を今夏訳了。折から身に迫る公害激化でこれらの知識を市民運動に注入しはじめています。諸君も現社会の盲目的構成分子に堕し切らないよう人間としての血潮の脈打ちを念願しています。

井上ゼミ 井上 清先生

一、五年前から二年に一回、OB会(清寿会)を開催している。

二、酒井 亮介(十五回卒)

三、酒井 脩(十六、十八回卒)

三、本学勤務は、既に二十五年となり戦後派の先生の最古参となりましたが、いよいよ民主主義の情熱を燃やしています。

大学一回生以来、一回も欠けることなく一貫した方針でゼミナールを実施し、ゼミ出身者数百名を数え、それぞれ元気に活躍しています。

来年三回目の清寿会(OB会)を開きますので是非参加して下さい。

展していつてくれるので、取扱う材料には少しも不足をきたしていません。現に、昨年十二月にいわゆるスミソニアン合意が成立し、多数の国が平価の調整(切上げ、切下げなど)を行ないましたが、それは一時的または暫定的の措置で、いまだ根本的な解決はついていません。そこで今月(九月)のIMF総会でどういふ話し合いとなるかわかりませんが、結局今年の年次総会では、また総務会の決議で、理事会になんらかの提案するよう要請し、また半年ぐらいかけて研究を行なつて提案がなされるというふうな段取りになるだろうと思つています。

現実の事態がそのように浮動的ですから、ゼミの参加者は、そういう事実の動きを追いつつ、他方その根底にある基本的問題とも取組み鋭意研究を重ねています。

現在ゼミの参加学生は、四年次生二十七名、三年次生三十名で、それぞれ興味のある一面を掘り上げています。おかげ様で就職も順調に運んでいて卒業時にまだ職がきまつていないというふうな人もないようです。簡単ですが近況をお知らせ致します。卒業生諸君の動静もなんらの手段でお知らせ下されば幸いです。

(四七・九・一〇)

北崎ゼミ 北崎 豊二先生

一、開催していません。

二、(回答なし)。

三、本年は、八月に東北地方へゼミ旅行に出かけ学生諸君と数日間楽しく過ごしました。しかし、彼等の日頃とはうって変わった元氣さに小生の方はついてゆくのがやつとでした。

倉辻ゼミ 倉辻 平治先生

一、本年七月十五日、OB各回卒の代表生合計二十八名相つどい楽しい一夕をすごしました。

二、武安 一明(二十四回卒)

三、小山田雄、福田芳明(三十五回卒)

三、(1)ゼミ学生のなかから先輩諸氏との交流を強めたいとの希望があり、前記のOB会にも現役のゼミ生代表四名(四回生二名、三回生二名)が参加しました。

とこで小生は、昨年の全日本学生ゼミ大会は(今春卒業生参加、および昨秋の大都市商学部交通ゼミとの合同討議会(現四回生参加)のテーマ「

岩井ゼミ 岩井 茂清先生

一、(回答なし)。

二、(回答なし)。

三、岩井ゼミの近況。

数年前から、当ゼミの研究テーマを「通貨体制」として研究している。来る年も来る年も同じテーマで研究しているのですが、幸か不幸か、そのテーマと内容となる現実の事態が次から次へと発

門坂ゼミ 門坂 正人先生

一、本年六月、一昨年三月卒業(一部)ゼミ生のOB会を有馬グランドホテル(一泊)でしました。

二、吉村昭(三十六回卒)

三、昨年引き続き経営学部の副学部長

この原稿は、左記の方々にお集りいただき、いろいろとお話をおききた中からまとめたものです

第26回	辰 本 博 己氏
第27回	重 森 義 夫氏
第28回	平 尾 哲 男氏
第29回	大 門 寿 郎氏
第30回	寺 岡 利 之氏
第31回	欠 席
第32回	欠 席
第33回	松 竹 喜 満氏
第34回	比 企 重氏

ミのあり方も、運営の仕方ともむづかしい問題で、今後この課題をどのように解決するか且下ゼミ生諸君とともに検討中です。

黒羽ゼミ 黒羽兵治郎先生

一、いいえ。
二、すみません。
三、既にこの世のものでないつもりで月日を送っています。世の中がうるさいゼミの諸君は元気、何かやむつかしいことをいったり、書いたりしてくれませんか。なかなか思うようにもなりません。それが人の世の普通の姿かもしれません。未来ある諸君はどうか健康でそれぞれの道をたくましく進んで下さい。

渋谷ゼミ 渋谷 寿夫先生

一、開催していません。
二、なし。
三、三、四年生とも十名ほどで、至極なごやかに勉強しています。テーマはいずれも「生物資源論」。

杉浦ゼミ 杉浦 貫一先生

一、四十二年卒(三十三回) (一部)のOB会が前田義務君の呼びかけで今年の二月に開かれました。OB諸君の人間的な成長ぶりに驚きました。

ゼミ旅行 田岡雁来紅

信濃路に入りて木曾川細まり真昼頃に白き風立つわかさがよく釣れるよと学生が魚籠見せて呉れぬ歌訪の岸辺にみづうみの水を割りて氷魚釣りし赤彦の歌を思い出したり年老いし我を氣遣い学生が信濃の鈴を付けて呉れたり学生が付けて呉れたる腰の鈴信濃の道を鳴らしつつゆく学生に世話をまかせて信濃路のふけゆく秋の旅をつづくる浅間山麓の宿に聞く小鳥五線に乗らぬ秋の朝の賦 燕去り雁来て飛ぶよ秋すでに深き信濃路旅つづけ行く 就職も皆きまりあてはがらなる学生とゆく秋の信濃路

動として、企業経営診断学会常任理事。社団法人中小企業診断協会顧問等々があります。

平ゼミ 平 実先生

一、ゼミのOB会は開催されていません。
二、未定。
三、現在の、二部合せて(三、四回生の合計)約百二十人近くの諸君とともに、主として国家独占資本主義に関する諸問題の研究をおこなっています。本年に入って左の二著作を上梓しました。
「国家独占資本主義の研究」ミネルヴァ書房。
「帝國主義と国家独占」千倉書房。
小生のゼミに所属したOB諸君たちよ。諸君たちが過ぎ去りし学生生活のノスタルジーにふけられるとき、小生のことを思い出してくれていますか。諸君たちのご健康とご活躍とを切にお祈りします。

竹林ゼミ 竹林 祐吉先生

一、昭和四十五年十一月 第一回OB会(現役を含む)開催、毎年一回開催の予定だったがその後実現していない。
二、(1)招集の世話は現役が行う。
(2)OB会会長、田中忠良(三十回卒) 東大阪市東石切町二九一二一
三、(1)四回生は例により卒論発表中、大半就職決定。
(2)三回生はテキスト、橋本勲著「現代商業学」(ミネルヴァ書房)を使用し発表、討論中。
(3)私の近況
石仏写真展を撮って廻るのが最大の楽しみです。いい石仏が近くにあってから教えて下さい。そのうちに石仏写真の個展をやりたいと思っています

田中ゼミ 田中 健一先生

一、(回答なし)。
二、(回答なし)。
三、昭和四十七年度、はじめてゼミ担当を命ぜられ二十二名の学友と「教育の平等問題」を研究しつつあります。

浜本ゼミ 浜本 泰先生

一、未開催であるが計画中。
二、近々各年次にわたり決定する予定。
三、経営学総論、経営財務論、簿記実習担当。本ゼミではドイツ経営学と財務論を共同研究。春季、夏季合宿各三泊四日実施。サベゼミとして、関西学生経済ゼミ大会、西日本学生経済ゼミ大会、全日本学生経済ゼミ大会へ参加(日本経済、中小企業、経営総論、経営管理、経営組織、労務管理、経営財務、証券市場の各部門で、三年・四年共同研究し、その結果を大会でレポートしている)

藤谷ゼミ 藤谷 謙二先生

一、開催したことあり(今年卒業の組)
二、西川 豊君(三十八回、昭和四十七年卒)。
三、人員は毎年三十名程度に限定しておりますが、年次によって、うまくまとまる組と、必ずしもそうでない組とがありゼミ運営のむづかしさを痛感しています。

松尾ゼミ 松尾 竹彦先生

一、開催したいと思っておりますが、ゼミ単位の卒業生名簿もなく世話役も勤務都合上機会なし。
二、毎年ゼミ幹事をきめています。過去八年のゼミ生の中で、特に平塚善悟君(三十八回、四十七年卒、近江鉄道勤務)をあげたいと思います。
三、ゼミナール生は毎年四十名内外おります。研究テーマは「アメリカ経営学」一殊に経営管理論・経営組織論一主としてテキストの輪読・研究報告を行なっています。なお、ゼミ生はゼミ旅行・ゼミコンパにも積極的に参加し、有意義な学生生活を送っています。

松原ゼミ 松原 和男先生

一、開いておりません。
二、(回答なし)。
三、小生のゼミナールでは、現代日本経済、特に、成長と循環の問題を中心として幅広く学んでおりますが、学園が



トピック 渡辺達好氏(3)、運輸大臣より表彰を受けられた。

三回卒業渡辺達好氏(現同窓会理事 長・京都バス株式会社取締役社長)は、永年陸運自動車事業にたずさわり、その功績が大であったというところで第十三回(昭和四十六年度)陸運および観光関係部外功労者として、昭和四十七年六月一日付で同月二十二日に東京の日本商工会議所講堂で丹羽運輸大臣より表彰状および記念品を授与されました。

串岡茂氏(10)、文部省より教育視察のため海外に

十回卒 串岡 茂氏(宮崎県鹿島台商業高等学校)は五月二十七日羽田発、文部省派遣海外教育事情視察団の一員として一月北廻り世界一周をされ、無事帰国された。その一文のむすびの中から
「日本にも外国にも劣らない美しさがいっぱいあるぞ、という気がした。こんどの私達の海外視察も群盲象をなせるの感があるが、いろいろと私なりに感ずることが多い。『教育改革の時機』というが諸外国を見てどうか」とふりかえってみる時、この短編に何か熱いものを感じずにはおられない。」

竹林祐吉教授、高島屋にて石仏写真展を開催された

九月十九日(火)より二十四日(日)の六日間、南海高島屋美術画廊(五階)にて石仏写真展を開催されました。
「石仏というものは、たといそれがどんなに造形的に厳しくとも、あるいは、どんなにそれが大衆的に泥臭くとも、そのもつ人間的な身近かさにたまらない魅力があります。」

松原保太郎先生

一、五年程前に開催しました。
二、(回答なし)。
三、OB諸君のご健康とご発展を祈ります。九月七日、八日に「合歡の郷」にゼミナール合宿をいたしました。その時もOB会を最近に開催したい希望がありました。如何。

松本ゼミ 松本 剛先生

一、第二学部の学年別のものを二組。第一学部はなし。
二、第二学部、植村祐三、松田今朝男、玉城義雄、山本政征、第一学部なし。
三、四十三年春季に病気をしまして、その年度のゼミナールの諸君にはたいへんご迷惑をかけ、また、輸血などいろいろとお世話になり感謝しております。その後、健康を回復したのでご報告いたします。

光沢ゼミ 光沢 滋朗先生

一、未開催。
二、名譽幹事 阪口恵造(三十八回、四十七年卒)

現実の世界、社会に実在する教育上の差別問題を憲法や教育基本法の精神にもとづいて取組もうとする本学では特異なゼミです。ご期待下さるようお願いいたします。

玉井ゼミ 玉井 孝弘先生

一、昨年、有馬の里、とあるひなびた寺にて。
二、(回答なし)。
三、過日、人間ドックに入りしころ、余のあずかり知らぬ病を養いおること判れり。曰く、胃、肝臓(イカンゾナモシ)、動脈硬化、糖尿等、嗚呼!
四回生は人道主義の見地から希望者全員を許したところ八十八名。まあ大変と、三回生は四十人にしぼりました。来年は二十名にハイ、サヨナラの所存。歴史の浅いわがゼミもがやがや、ノビノビやっています。二年留年してアメリカ放浪中というたのもしい若者もいます。
青年よ、天に向って立て!

玉置ゼミ 玉置 保先生

一、開催していません。
二、白銀 憲治君(三十八回、四十七年三月卒)
三、(回答なし)。
三、昨年来、経営学部長をさせていたでいます。が、浅学非才、努力もたらず大学の現状を維持するのが精一杯で前進、発展に寄与できないことを申し訳なく思い、OBの各位にも心からお詫び申し上げます。
ゼミナール三回生、四回生それぞれ数十名おりますが、元気で研究にいそしんでおり、秋にはコンパ、旅行などのスケジュールも組まれており、親睦の実もあがると考えております。

中川ゼミ 中川 操先生

一、今年はじめのゼミナールです。で、まだOBはございません。
二、(回答なし)。
三、東西文化の接点ということテーマ

ゼミ旅行 田岡雁来紅

にしていますので、一年に一度は外国へ出てみたいと思っています。今年はお正月休みを利用してハワイの東西文化センターを訪ねてみたいと思っています。
一、(回答なし)。
二、(回答なし)。
三、四十六年からゼミを開講いたしましたので現四回生まで、まだ卒業生を出していません。
四回生ゼミ：自然災害と自然利用。
三回生ゼミ：平野の自然史。
二回生ゼミ：自然災害と自然利用。
一回生ゼミ：平野の自然史。
は二十五名。三回生は六名です。

西口ゼミ 西口 俊子先生

一、卒業生全員のものは計画はあるようですが実現していません。クラス別のはありません。
二、町田英夫(三十二回卒)
三、八尾市南木の本五九 正義荘
三、最近のゼミナール(一部)は、毎年三十名をこえ初期の人には想像できないと思えます。二部のゼミは、人数は十名前後ですがきわめて熱心です。私はいたずらに馬鹿と体重を加えるのみ。先日、梅田で卒業後数年ぶりにK君とばったり出会いました。開口一番「センセ、トシトリマシタアア」在学中からホントのことしかいわない人でしたが、かわらぬものだと思いました。卒業生諸兄姉の奮闘をいのりま

浜田ゼミ 浜田 幸策先生

一、来校して日も浅くやっています。
二、OBの特定の世話役はおりません。
三、今年、日本の軍閥の研究を主題にしております。学生諸君の研究意欲は乏しく、資料を刷ったりして多少なりとも意欲をかりたてるようにしていますが、その真意を理解してくれる人は少くないようです。学生諸君はゼミ旅行以外にはあまり考えることをしないようです。

松本ゼミ 松本 剛先生

一、開催したいと思っておりますが、ゼミ単位の卒業生名簿もなく世話役も勤務都合上機会なし。
二、毎年ゼミ幹事をきめています。過去八年のゼミ生の中で、特に平塚善悟君(三十八回、四十七年卒、近江鉄道勤務)をあげたいと思います。
三、ゼミナール生は毎年四十名内外おります。研究テーマは「アメリカ経営学」一殊に経営管理論・経営組織論一主としてテキストの輪読・研究報告を行なっています。なお、ゼミ生はゼミ旅行・ゼミコンパにも積極的に参加し、有意義な学生生活を送っています。

松原ゼミ 松原 和男先生

一、開いておりません。
二、(回答なし)。
三、小生のゼミナールでは、現代日本経済、特に、成長と循環の問題を中心として幅広く学んでおりますが、学園が

光沢ゼミ 光沢 滋朗先生

一、未開催。
二、名譽幹事 阪口恵造(三十八回、四十七年卒)

48年度入試要項

1	経済学部	経済学科	400名
部	経営学部	経営学科	400名
	経済学部	経済学科	100名
2	経営学部	経営学科	100名

学部	試験日	試験地
経済	2月16日(金)	大阪・金沢・名古屋・姫路
経営	2月17日(土)	広島・高松・福岡・鹿児島

学部	科目	備考	配点(計500点)	試験時間
経済学部	英語	英語B	200	80分
	国語	現代国語 古典乙1(但し古文のみ)	150	70分
(1・2部共)	社会(1科目)	倫理・社会、政治・経済 日本史、世界史B、 地理B、商業一般、簿記	150	70分

4. 出願期間・合格発表・入学手続
- ① 出願期間 48年1月18日(木)～2月7日(水)(郵送出願にかぎる)
 - ② 合格発表 入試10日後の予定。(学内に掲示し又本人に直接通知する)
 - ③ 入学手続 合格発表日より10日以内の予定
5. 出願について
- ① 48年度入試要項は、11月1日発行の予定である。
 - ② 要項請求先：大阪市東淀川区大隅通2丁目2番地 本学入試事務室、要項請求にはタテ5cmヨコ12cmの用紙に、住所氏名を横書きし、代金共220円(切手可)を同封すること。
 - ③ 入試試験要項には経済(1・2部)経営(1・2部)両学部の出願書類がセットしてあるので併願する場合でも1通請求すれば足りる。
 - ④ 但し、出願にあたっては、両学部の出願書類を同封して郵送してもよいが検定料は両学部とも納付しなければならない。

47年度志願者・受験者・合格者及び入学者状況

()内は女子の内数を示す

年度	学部	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率	欠席率%	46年度	
								志願者	増減比
1	経済部	6,688 (102)	5,853 (92)	1,465 (25)	801 (8)	4.0	12.5	7,652 (91)	0.87
	経営部	5,965 (112)	5,057 (92)	1,492 (36)	911 (27)	3.4	15.2	5,120 (71)	1.17
	計	12,653 (214)	10,910 (184)	2,957 (61)	1,712 (35)			12,772 (162)	0.99
2	経済部	750 (15)	608 (12)	427 (8)	332 (6)	1.4	18.9	749 (14)	1.00
	経営部	547 (12)	432 (9)	329 (7)	236 (5)	1.3	21.0	622 (18)	0.88
	計	1,297 (27)	1,040 (21)	756 (15)	568 (11)			1,371 (32)	0.95

奈良県桜井市市役所通二丁目
TEL(〇七四四四)二一九四六三

三、小生は相変らず元気で。皆さんは如何ですか。今年も例年の如く、夏の合宿を行ないました。唯、皆さんの場合と異なる点は、第一に場所が岡山県山国民休村に変わったこと、第二に朝から晩まで勉強一筋に過ごしたことです。今後、更に活躍されることを祈ります。

山本ゼミ 山本 晴義先生

一、年中とってよいほどゼミ卒業生諸君が来訪しますが、一堂に会するといったOB会はやりません。

二、(回答なし)。

三、近來健康をそこね療養につとめていますが、大学の仕事や、とくに出版社との約束期限の切れている著書の執筆に七転八倒の状態です。

ゼミナールは、ちょっと人数が多すぎるというのが悩みですが、ここ二、三年来、ゼミ生相互の討論が非常に活発と、いれかわりたちかわりゼミ生諸君が家に遊びに来るのが楽しみです。

◇ ◆ ◆

會春会(倉辻ゼミ縦の会)発足によせて
三十五回(四十四年卒)

小山田 雄
福田 芳明

「一度、先輩や後輩と話がしたい。」
「倉辻ゼミをとった連中が、どんな所で

活躍しているのだろうか。」横の縦がりはあるが、縦の縦がりは、全くだ、これは、在学中にも感じたことであるし、毎回の春潮会(四十四年度卒・倉辻ゼミ同窓会)の席で我々が話しあうことである。社会に出て三年、そんな感慨にふける時期かもしれない……。がしかし大げさになって、我々の青春の一時期を過ぎた大阪経済大学、それも、倉辻ゼミに学んだのに……フツと気が付くと、何の人間の関係も作ってないなったり、卒業とともに消滅している。本当に残念に思う！。大学生活とは、そんな物だったのか、なんて疑問も湧いてくる。今にして思うと、大学生生活に求めたもの、数かぎりない夢は、無惨にも破れ去っていったのだらう。先生との会話も、あまりにも少なかったような気がする。しかし、卒業して、同窓会で身近に先生と話していると、実に楽しい。人間的な触れ合いのなかつたことが、今さらのように思い出される。先輩達はどうだらう。今の在学生はどうだらう。我々と同じように感じているのではないだろうか。なんて話しているうちに、倉辻先生も乗り気になられて、じゃ、一度「倉辻ゼミ縦の会」としてやってみようということになった。集って、ガヤガヤ話だけでもいいじゃないか、何か得る物があるだろうと。また、在学生によって、ゼミナールでのコミュニケーション及びビュローマンリレーションの一助ともなれば良いし、我々

卒業生には、学生時代の楽しい思い出、在学生の若い息吹を感じて若がえること、もよい、社会の種々雑多の話題を語り合うのも良いと思つたのである。三十三年度の武安氏の指導のもと、在学生のゼミ幹事の人達に倉辻ゼミ発足の昭和二十五年卒業生からの不完全ではあるが名簿を作成してもらい、最初でもあるので、各期から二名程度の代表を先生に選んでもらい発足した。この会は、あくまで自由に、楽しく、気楽に先生を囲み語り合うということであるので、規約らしい規約も作らないことにした。大阪経済大学に在席したこと、倉辻ゼミに在席したこと、たったこのことだけで、まったく初対面の人達が、このように楽しく、なかやかに一時を過ぎる、なんと素晴らしいことか！。そして我々の人生で大学生活というものが、重要な意味をもつたんだなと思つた。では楽しかった当日の雰囲気を書いてみましょう。

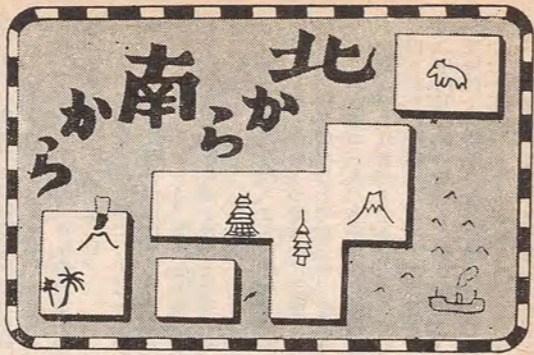
いよいよ、七月十五日の当日がやってきた定期より少し早く集合場所へ行く。いるいる、それらしき人達が。しかし、面識がないため声もかけられない。先生がお見えになった。やはり、そうだ。回りにいた人々が笑顔で先生をぐるりと囲み出す。先生は一人ずつ名前をあげては堅く握手をされた。先生だけが唯一のシンボルなんだからと、一番目立つ所へ立つてもらい、先輩諸氏の到着を待った。あいにくの雨だったが、結局、卒業生二十八名、在学生四名の三十二名が集結し

た。会場では、各自胸に名札をつけ、席におさまった。先生の挨拶に続き、乾杯で開宴ということになった。次から次へ、名刺交換が始まる。私も、手持の名刺をわずかに十数分で消化してしまつた。自分の勤務先と取引のある先輩、取引関係では、先輩と後輩が逆の立場になったりするからおもしろい。また、自分の会社の上司と知人である先輩、思わぬネタを収集したりもする。

これは！これは！倉辻ゼミ出身ではない方も混つておられたようである。在学生の手によるガリ刷りの名簿が手渡され、その中に、親戚の人や知人の名前を見つけて驚ろいている人もいたようである。最初の席はどこへやら、あちこちで話に花が咲いているようである。学生歌がでる、学歌がでるで一段と賑やかになったところで、松尾先輩の「レゾー・経大」がでて、一層、会場が沸いたその賑やかさといえは、近くの客から苦情がでる程だった。楽しい時は、またたく内に過ぎてしまつた。次にまた逢えるのを堅く約束し、先生あつてのこの会、倉辻先生の下に集れるのだと、歴史を向えられた先生のご健康とご多幸を祈り万才を三唱して別れた。

なお、この紙面をお借りして、倉辻ゼミ出身の皆様は、名簿作成のため、左記の方まで、最新の勤務先と現住所をご連絡下さるようお願い致します。

比企 重



アンケート集

この原稿は、同窓会会員の皆さんからお寄せいただいたもので、事務局の名簿に より無さく抽出で選んだ方々です。

といっても、単に何でも結構ですというわけにもまいりませんので、特に①現況について ②母校同窓会に希望すること ③同窓の友人などのこと ④自由にお書き下さい。ということアンケート式の質問に対してお寄せいただいた短信です。

もとより、同窓会会員は全国各地にあって、北は北海道から南は九州鹿児島にいたるまでそれぞれ活躍中ですが、これはその近況です。

てみると(高木真助教授)もうとても駄目だらうが一応テストだけでやろうと言われ、関係教授に試験問題を聞いて来られた。私は広い会議室に入れられ、二、三科目の試験を唯一人で一生懸命書きました。答案用紙を教員室へ持って行くこと、これは入試ではないのだから此の結果で入学とは行かんのだよ。だが成績を見て校長に一応頼んでみるから明日校長の来られる時間に一度来てみなさい。というご返事。それでしょんぼり家に帰り明日勇気を新たに、決められた時間に行くと、校長室に案内され、威厳ある黒正先生にお目にかかれました。

買った若しや。夢でも持とう。四十二年長年住み慣れた大阪の地を去って早や五年。着任早々英ポンドの切下げ、そして今日までズーツと為替の不安に悩まされ通し外国為替部で食ぶちを貰っているのだからやむを得ないといえはそれまで、元宿命なり。

高商時代及び戦後二十五年以上も大阪の空気を吸った私が関東に居を持つことは夢想だにできなかった。新幹線で三時間だとは簡単に済ませられない。

当地に米てから母校の活字はほとんどお目にかかぬ。いささか寂しさを憶える。

復職、朝鮮動乱を契機に会社も漸く復興の兆しが見え始めた頃、管理職の末席をけがしていた我々は上司から尻を叩かれ大いに活躍した。ここでも重宝がられていつの間にか五十を過ぎました。これが我々同窓生の人生である。重宝がられた我々は尚も各方面で活躍をつづけた。

母校も戦中戦後幾多の苦難の道を通り越られてのご発展をお喜び申し上げ今後の母校、諸先生、同窓生の方々のご多幸を祈ります。

第四回 原 秀夫

今月三月末で三十四年間勤めた住友海上火災を停年退職、第二の人生のスタートをきりました。住友海上の代理店に勤めていましたので仕事は変わりませんが、立場が全然違う上、待遇も現役時代の三分の一、勤務時間は50%増と、全くきびしい現実に直面しています。健康に留意して皆様のお役に立ちたいと考えております。

第六回 熊谷義直君、京都へ転任しました。二六〇三 京都市北区小山下花ノ木町三 TEL 〇七五一四九一一八六九八 勤務先 日本火災海上保険(株)京都支店です。

第六回 三好 徳彦

昭和十三年春、親友の藤岡康男君(昭和十九年戦死)の家へ浪人話に行くと、僕は昭和商へもう通学しているという。いろいろ聞いてみると、とにかく諸先生方のことをベタほめである。それならなせ早く聞かされてくれなんだ、とほやき、また二次試験があるかもしれないというので、すぐ学校へ手続書類を持って行ったが、もう二次試験は済んだ後であつた。

あきらめ切れず一人の先生にお願いし

活躍しているのだろうか。」横の縦がりはあるが、縦の縦がりは、全くだ、これは、在学中にも感じたことであるし、毎回の春潮会(四十四年度卒・倉辻ゼミ同窓会)の席で我々が話しあうことである。社会に出て三年、そんな感慨にふける時期かもしれない……。がしかし大げさになって、我々の青春の一時期を過ぎた大阪経済大学、それも、倉辻ゼミに学んだのに……フツと気が付くと、何の人間の関係も作ってないなったり、卒業とともに消滅している。本当に残念に思う！。大学生活とは、そんな物だったのか、なんて疑問も湧いてくる。今にして思うと、大学生生活に求めたもの、数かぎりない夢は、無惨にも破れ去っていったのだらう。先生との会話も、あまりにも少なかったような気がする。しかし、卒業して、同窓会で身近に先生と話していると、実に楽しい。人間的な触れ合いのなかつたことが、今さらのように思い出される。先輩達はどうだらう。今の在学生はどうだらう。我々と同じように感じているのではないだろうか。なんて話しているうちに、倉辻先生も乗り気になられて、じゃ、一度「倉辻ゼミ縦の会」としてやってみようということになった。集って、ガヤガヤ話だけでもいいじゃないか、何か得る物があるだろうと。また、在学生によって、ゼミナールでのコミュニケーション及びビュローマンリレーションの一助ともなれば良いし、我々

第七回 中山 正健

星の如く数ある卒業生の中から「北から南から」に選ばれ、本年は宝くじでも

私が本部役員をしていた頃、しばしば同窓会の名称を作ろうと話題になっていたが其の後どうなつていのだろうか。大学になって二十数年を経た現在においても経大同窓会はねえ。

なんだかんだいいながら、体重は自分の努力とほうら腹に年と共に増えるばかり。八十キロの重みに耐えかねている。諸君、健康は矢張り大切だよ。

ジイサンが一番乗り。誰だろう。つれづれなるままに。ハイ。

今年には斗病のお蔭で漸く身体も回復に向い、一安心しております。例年にない酷暑も過ぎ朝夕は涼しくなつて、毎日元気で業務に精励致しております。

六月に稗田君を八月十四日には牛尾君に偶然お逢いして同窓の方々の健闘振りをお聞きして本当に嬉しく私も負けずに頑張つてゆきます。

いよいよやりの難い時代が来ました。また、やり甲斐のある仕事も出て来ました。母校の発展、同窓生各位のご健闘を祈念してやみません。

第八回 山本 賢蔵

平素はご無沙汰に打過ぎ失礼しております。母校には益々のご発展の段、心よりお慶び申し上げます。同窓会役員諸氏

ていますが、みなさんは何を考えて生きていらつしゃいますか。親ばかりチャンリンにならぬよう祈ります。

第二十四回 横山 亮
硬式野球部二十四回卒業を中心に年二回のゴルフを楽しんでおります。大阪支部、神戸支部の諸兄のご参加を希望いたします。直緒先

第二十四回 小林 正樹
残暑厳しき今日、同窓会諸兄におかれましてはご健祥のこととお慶び申し上げます。小生昭和三十三年の卒業でございますが、同窓会には各方面で多大な活躍のことがありますが、小生は卒業後、十五年経とうとしていますが、いまだに学生時代と変わらぬ状態で芸能関係の仕事をして居る最中です。ポトルなら三月月ですか。

第二十四回 松田 輝夫
一、第二師団司令部(旭川)の輸送課に勤務し、輸送に関する計画業務に従事中。二、特になし。三、遠隔地に勤務のため目下、交流なし。

第二十五回 藤原 俊明
山口県庁で広報紙「グラフやまぐち」で県政のPRをしています。仕事柄、原稿を書くことは多いのですが、ひどい筆無精で、卒業以来、諸先生方、ゼミ、写真部、下宿の仲間にはまだ一度もたよりを出さないうちに、もう一年半も過ぎてしまいました。来山の際にはぜひご一報下さい。

第三十七回 澤崎 廣三
前略、「商都の東北灘江に、臨みて高くそそり立つ我れらが」。母校大阪経済大学を卒業して早や二年。私もようやく一人前の社会人として民間デイベックの東急不動産で、日本の住宅問題解決に少しでも役に立とうと使命感を持って、微力ながら努力している今日です。東京での昨年一年間は、私にとってあらゆる意味でも勉強になりました。今年転勤で古巣大阪へ帰ってまいりました。三月二十八日、一年ぶりで新幹線から赤レンガの校舎を見た時のうれしさ、なつかしさはとも文章には表わすことができません。母校を離れてみて経大の四年間が本当に悔いのない有意義な青春のページだったと、しみじみと感じる昨今です。今になって楽しい学生時代をおくれ

第三十八回 波谷 伸一
私は本年度卒業し朝日生命に入社しました。現在研修所に研修生として入所

第三十七回 大門 利
卒業後約二年間があつたという間に過ぎ周囲を見わたすに社会の変化の著しいのに比し、自分の進歩が少くないのに気が付き、日々苦悩している次第である。私は現在、人の親として生活しているが、常に感じているのは教育の重要性である。なお、以前より考えていたが、私の職場電々公社にも幾多の経大生を見るにつけ、事情がゆるすならば諸兄との会合を持ちたいと思います。せんえつながら、この機会をかり連絡させていただきます。最後にになりましたが、母校経大のより一層の発展を祈り、そのためには私も微力ながら努力していきたいと思

第三十七回 大門 利
卒業後約二年間があつたという間に過ぎ周囲を見わたすに社会の変化の著しいのに比し、自分の進歩が少くないのに気が付き、日々苦悩している次第である。私は現在、人の親として生活しているが、常に感じているのは教育の重要性である。なお、以前より考えていたが、私の職場電々公社にも幾多の経大生を見るにつけ、事情がゆるすならば諸兄との会合を持ちたいと思います。せんえつながら、この機会をかり連絡させていただきます。最後にになりましたが、母校経大のより一層の発展を祈り、そのためには私も微力ながら努力していきたいと思

第三十七回 大門 利
卒業後約二年間があつたという間に過ぎ周囲を見わたすに社会の変化の著しいのに比し、自分の進歩が少くないのに気が付き、日々苦悩している次第である。私は現在、人の親として生活しているが、常に感じているのは教育の重要性である。なお、以前より考えていたが、私の職場電々公社にも幾多の経大生を見るにつけ、事情がゆるすならば諸兄との会合を持ちたいと思います。せんえつながら、この機会をかり連絡させていただきます。最後にになりましたが、母校経大のより一層の発展を祈り、そのためには私も微力ながら努力していきたいと思

四、関西の方に転勤の際は是非訪校したい。

第二十六回 磯田 郷一郎
甲府市に着任して早や二年が過ぎようとしているが、山梨県在住の同窓生を数名探して、その内、金沢出身の河南君とは特に交流を深くするようになった。大学を出て十二年目だが、この県からは、やはり大阪経大の志望者は無い模様なので、母校もまだまだPR不足ではないかと思つて居る。

第二十七回 堀田 肇
前略、いつもお世話にあつかり有難うございます。この葉書も早くおうけしておりましたが、都合でおそくなりましたことをおわび申し上げます。毎回の同窓会を楽しみにしております。よろしくお願ひします。会誌への希望がすりかえられたことをお許し下さい。

第二十九回 西園 隆弘
拝啓、秋らしく山の木々も紅化粧をほどこして一年のうちでも、もっともしのがやよい日々になりましたが、恩師の先

第三十五回 谷川 昌市
私、本年五月一日より東京に参りまして、早や四月。上京後、早速、東京支部長服部友一氏を訪ねましたところ、なんと支部長は某社コンピュータ室長では

第三十三回 増田 豊太郎
ここ四回、伊予三島に思いがけない便りがまいこみペンを走らせておりました。在学中の唯一の思い出として土生ゼミにおける「商店街従業員実態調査」をグループ十四人で本を発行出来たことです。卒業以来六年余り、皆様もいろいろな道を通って来られたと思いますが、そのたびにアドバイスしてくれ、力になってくれたのはゼミの四人仲間でした。今では兄弟以上のつきあひとなり、商売のこと、人生のことでお互いに声をかけあひがなばつております。この間卒業以来初めて四人で逢う機会をえて、学生時代の話を花を咲かせることができました。土生先生のもと来年こそは十四人で新年会を開こうと考えておりますので、これを讀まされてグループの皆様、近況をお知らせ下さいませ。また、吉田様の下宿で世話になった先輩の皆様もご連絡下されば幸いです。

第三十三回 増田 豊太郎
ここ四回、伊予三島に思いがけない便りがまいこみペンを走らせておりました。在学中の唯一の思い出として土生ゼミにおける「商店街従業員実態調査」をグループ十四人で本を発行出来たことです。卒業以来六年余り、皆様もいろいろな道を通って来られたと思いますが、そのたびにアドバイスしてくれ、力になってくれたのはゼミの四人仲間でした。今では兄弟以上のつきあひとなり、商売のこと、人生のことでお互いに声をかけあひがなばつております。この間卒業以来初めて四人で逢う機会をえて、学生時代の話を花を咲かせることができました。土生先生のもと来年こそは十四人で新年会を開こうと考えておりますので、これを讀まされてグループの皆様、近況をお知らせ下さいませ。また、吉田様の下宿で世話になった先輩の皆様もご連絡下されば幸いです。

第三十三回 増田 豊太郎
ここ四回、伊予三島に思いがけない便りがまいこみペンを走らせておりました。在学中の唯一の思い出として土生ゼミにおける「商店街従業員実態調査」をグループ十四人で本を発行出来たことです。卒業以来六年余り、皆様もいろいろな道を通って来られたと思いますが、そのたびにアドバイスしてくれ、力になってくれたのはゼミの四人仲間でした。今では兄弟以上のつきあひとなり、商売のこと、人生のことでお互いに声をかけあひがなばつております。この間卒業以来初めて四人で逢う機会をえて、学生時代の話を花を咲かせることができました。土生先生のもと来年こそは十四人で新年会を開こうと考えておりますので、これを讀まされてグループの皆様、近況をお知らせ下さいませ。また、吉田様の下宿で世話になった先輩の皆様もご連絡下されば幸いです。

第三十三回 増田 豊太郎
ここ四回、伊予三島に思いがけない便りがまいこみペンを走らせておりました。在学中の唯一の思い出として土生ゼミにおける「商店街従業員実態調査」をグループ十四人で本を発行出来たことです。卒業以来六年余り、皆様もいろいろな道を通って来られたと思いますが、そのたびにアドバイスしてくれ、力になってくれたのはゼミの四人仲間でした。今では兄弟以上のつきあひとなり、商売のこと、人生のことでお互いに声をかけあひがなばつております。この間卒業以来初めて四人で逢う機会をえて、学生時代の話を花を咲かせることができました。土生先生のもと来年こそは十四人で新年会を開こうと考えておりますので、これを讀まされてグループの皆様、近況をお知らせ下さいませ。また、吉田様の下宿で世話になった先輩の皆様もご連絡下されば幸いです。

第三十三回 増田 豊太郎
ここ四回、伊予三島に思いがけない便りがまいこみペンを走らせておりました。在学中の唯一の思い出として土生ゼミにおける「商店街従業員実態調査」をグループ十四人で本を発行出来たことです。卒業以来六年余り、皆様もいろいろな道を通って来られたと思いますが、そのたびにアドバイスしてくれ、力になってくれたのはゼミの四人仲間でした。今では兄弟以上のつきあひとなり、商売のこと、人生のことでお互いに声をかけあひがなばつております。この間卒業以来初めて四人で逢う機会をえて、学生時代の話を花を咲かせることができました。土生先生のもと来年こそは十四人で新年会を開こうと考えておりますので、これを讀まされてグループの皆様、近況をお知らせ下さいませ。また、吉田様の下宿で世話になった先輩の皆様もご連絡下されば幸いです。

生をはじめ卒業生のみなさん、かがお過ごしですか。私も大学を卒業しましてから、早や十年が過ぎようとしています。そしていまは宮崎県立日南振徳商業高校に勤務し、毎日を生徒のために教育に専念致しております。学校にも電算室にコンピュータが入り、情報処理教育に力を入れているのを見て、時代の流れ、科学の進歩の早さに目をみはる思いが致しておりますが他の卒業生の皆様がそれぞれ第一線で頑張っておられるのを見て心強く思っております。今後ともよろしくご指導のほどお願い致します。

第三十三回 増田 豊太郎
ここ四回、伊予三島に思いがけない便りがまいこみペンを走らせておりました。在学中の唯一の思い出として土生ゼミにおける「商店街従業員実態調査」をグループ十四人で本を発行出来たことです。卒業以来六年余り、皆様もいろいろな道を通って来られたと思いますが、そのたびにアドバイスしてくれ、力になってくれたのはゼミの四人仲間でした。今では兄弟以上のつきあひとなり、商売のこと、人生のことでお互いに声をかけあひがなばつております。この間卒業以来初めて四人で逢う機会をえて、学生時代の話を花を咲かせることができました。土生先生のもと来年こそは十四人で新年会を開こうと考えておりますので、これを讀まされてグループの皆様、近況をお知らせ下さいませ。また、吉田様の下宿で世話になった先輩の皆様もご連絡下されば幸いです。

第三十三回 増田 豊太郎
ここ四回、伊予三島に思いがけない便りがまいこみペンを走らせておりました。在学中の唯一の思い出として土生ゼミにおける「商店街従業員実態調査」をグループ十四人で本を発行出来たことです。卒業以来六年余り、皆様もいろいろな道を通って来られたと思いますが、そのたびにアドバイスしてくれ、力になってくれたのはゼミの四人仲間でした。今では兄弟以上のつきあひとなり、商売のこと、人生のことでお互いに声をかけあひがなばつております。この間卒業以来初めて四人で逢う機会をえて、学生時代の話を花を咲かせることができました。土生先生のもと来年こそは十四人で新年会を開こうと考えておりますので、これを讀まされてグループの皆様、近況をお知らせ下さいませ。また、吉田様の下宿で世話になった先輩の皆様もご連絡下されば幸いです。

第三十三回 増田 豊太郎
ここ四回、伊予三島に思いがけない便りがまいこみペンを走らせておりました。在学中の唯一の思い出として土生ゼミにおける「商店街従業員実態調査」をグループ十四人で本を発行出来たことです。卒業以来六年余り、皆様もいろいろな道を通って来られたと思いますが、そのたびにアドバイスしてくれ、力になってくれたのはゼミの四人仲間でした。今では兄弟以上のつきあひとなり、商売のこと、人生のことでお互いに声をかけあひがなばつております。この間卒業以来初めて四人で逢う機会をえて、学生時代の話を花を咲かせることができました。土生先生のもと来年こそは十四人で新年会を開こうと考えておりますので、これを讀まされてグループの皆様、近況をお知らせ下さいませ。また、吉田様の下宿で世話になった先輩の皆様もご連絡下されば幸いです。

第三十三回 増田 豊太郎
ここ四回、伊予三島に思いがけない便りがまいこみペンを走らせておりました。在学中の唯一の思い出として土生ゼミにおける「商店街従業員実態調査」をグループ十四人で本を発行出来たことです。卒業以来六年余り、皆様もいろいろな道を通って来られたと思いますが、そのたびにアドバイスしてくれ、力になってくれたのはゼミの四人仲間でした。今では兄弟以上のつきあひとなり、商売のこと、人生のことでお互いに声をかけあひがなばつております。この間卒業以来初めて四人で逢う機会をえて、学生時代の話を花を咲かせることができました。土生先生のもと来年こそは十四人で新年会を開こうと考えておりますので、これを讀まされてグループの皆様、近況をお知らせ下さいませ。また、吉田様の下宿で世話になった先輩の皆様もご連絡下されば幸いです。

第三十三回 増田 豊太郎
ここ四回、伊予三島に思いがけない便りがまいこみペンを走らせておりました。在学中の唯一の思い出として土生ゼミにおける「商店街従業員実態調査」をグループ十四人で本を発行出来たことです。卒業以来六年余り、皆様もいろいろな道を通って来られたと思いますが、そのたびにアドバイスしてくれ、力になってくれたのはゼミの四人仲間でした。今では兄弟以上のつきあひとなり、商売のこと、人生のことでお互いに声をかけあひがなばつております。この間卒業以来初めて四人で逢う機会をえて、学生時代の話を花を咲かせることができました。土生先生のもと来年こそは十四人で新年会を開こうと考えておりますので、これを讀まされてグループの皆様、近況をお知らせ下さいませ。また、吉田様の下宿で世話になった先輩の皆様もご連絡下されば幸いです。

第三十三回 増田 豊太郎
ここ四回、伊予三島に思いがけない便りがまいこみペンを走らせておりました。在学中の唯一の思い出として土生ゼミにおける「商店街従業員実態調査」をグループ十四人で本を発行出来たことです。卒業以来六年余り、皆様もいろいろな道を通って来られたと思いますが、そのたびにアドバイスしてくれ、力になってくれたのはゼミの四人仲間でした。今では兄弟以上のつきあひとなり、商売のこと、人生のことでお互いに声をかけあひがなばつております。この間卒業以来初めて四人で逢う機会をえて、学生時代の話を花を咲かせることができました。土生先生のもと来年こそは十四人で新年会を開こうと考えておりますので、これを讀まされてグループの皆様、近況をお知らせ下さいませ。また、吉田様の下宿で世話になった先輩の皆様もご連絡下されば幸いです。

第三十三回 増田 豊太郎
ここ四回、伊予三島に思いがけない便りがまいこみペンを走らせておりました。在学中の唯一の思い出として土生ゼミにおける「商店街従業員実態調査」をグループ十四人で本を発行出来たことです。卒業以来六年余り、皆様もいろいろな道を通って来られたと思いますが、そのたびにアドバイスしてくれ、力になってくれたのはゼミの四人仲間でした。今では兄弟以上のつきあひとなり、商売のこと、人生のことでお互いに声をかけあひがなばつております。この間卒業以来初めて四人で逢う機会をえて、学生時代の話を花を咲かせることができました。土生先生のもと来年こそは十四人で新年会を開こうと考えておりますので、これを讀まされてグループの皆様、近況をお知らせ下さいませ。また、吉田様の下宿で世話になった先輩の皆様もご連絡下されば幸いです。

第三十三回 増田 豊太郎
ここ四回、伊予三島に思いがけない便りがまいこみペンを走らせておりました。在学中の唯一の思い出として土生ゼミにおける「商店街従業員実態調査」をグループ十四人で本を発行出来たことです。卒業以来六年余り、皆様もいろいろな道を通って来られたと思いますが、そのたびにアドバイスしてくれ、力になってくれたのはゼミの四人仲間でした。今では兄弟以上のつきあひとなり、商売のこと、人生のことでお互いに声をかけあひがなばつております。この間卒業以来初めて四人で逢う機会をえて、学生時代の話を花を咲かせることができました。土生先生のもと来年こそは十四人で新年会を開こうと考えておりますので、これを讀まされてグループの皆様、近況をお知らせ下さいませ。また、吉田様の下宿で世話になった先輩の皆様もご連絡下されば幸いです。



北から南から

▽灘江が薄っぺらなものになってしまった。三分の一の十二ページが減ったのだから無理もない。理由の最たるものは郵便代の値上げ、例の灘江だと一部四十五円、一万会員に送るとなるとそれだけで九〇万円、とてもこのに財政がもたない。

▽そこで苦心の末に決めたのが、定形の五〇グラムまで二十五円、これ以上になると定形の恩典はない。五〇グラムにおさえるためには二十四ページがやつとということである。

北から南から

▽ために表紙も薄くし、グラビヤはなしサイズもやや小型になった次第。▽ページ数は減ったが、一方原稿は山積折角全国から送られてきた貴重な原稿をすべて集録するとなると、どうしても活字を小さくしなければならぬ。通常の8ポ活字が7ポ活字になってしまった、大先輩あたりからお叱りを受けそうだが、その辺のところをご了解いただきたい。

▽いったことで、今回の編集にあたっては、新企画を出そうにも、削ることが先だって満足いくものは出なかったが、そうした中でも新しく、ゼミ短信を新規に掲載することにした。

北から南から

▽最近の大学はご存知の通り、マンモス化する一方、一学年が、一千人も三千人もいるのだから、横の連絡がない。顔なじみになって、親しく交際するのはゼミ会かクラブの同志ぐらいなもの。昔の一級五〇人で、一学年二五〇人とは話が違ふのである。

▽そこで、新しい同窓生のためにと企画したのが、このゼミ短信である。▽また、僅かではあるがトビツクの欄も設けた。

第8号

昭和47年11月1日発行

編集者 山中 良夫
発行所 大阪経済大学同窓会
大阪市東淀川区大隅通2丁目
電話 (328) 2431~3
印刷所 共成社印刷株式会社
大阪市北区葉村町40番地
電話 大阪 (371) 0254



大阪経済大学同窓会誌 NO. 8